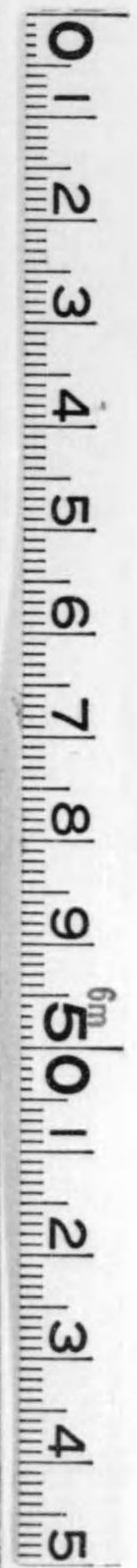




56

X
複写



始

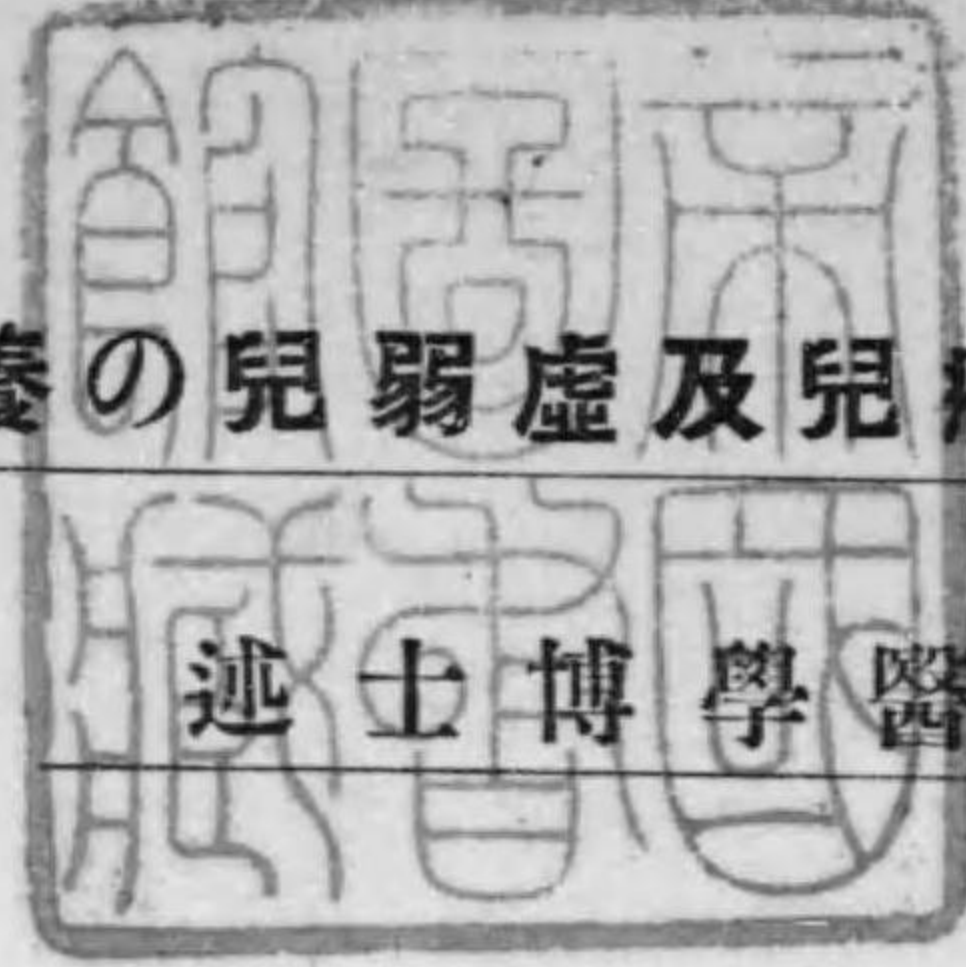


15-18

病兒及虛弱兒の養育法

全

法育養の兒弱虛及兒病



瀬川醫學博士

大正
5. 6. 26
内交

はしがき

體力充實、筋骨逞しき強壯なる國民の基礎は、小兒時代の
健全、尤も重大なる關係を有す、されば育兒衛生の法たる
や、實に健全なる國民を作るの根本義なりと謂はざる可
からず。

予は此趣旨に従ひ、嘗て報知新聞に筆を執りし當時より、
醫學博士瀨川昌者先生に就て教へを受くる、茲に廿年に垂
んとす、其高説は勿論、單に一片の座談たりと雖も、事育兒衛
生に關するものは、必ず之れを筆記して丁重に保存す、先生
の門下生は全國到る處に多し、然れども予の如く膝を交へ

て一々指導を仰ぎ、單獨教授の榮を得たるもの、門下諸士の中、幾人かある、加も諸士は多く醫術に於て之れを聴くも、予は通俗育兒の醫說に於て教へを受く、薰陶誘掖の恩殊に深し。

本書は世の親々の最も憂ひとなす、病兒虚弱兒の養育方法に就き、嘗て先生より承聽せし筆記の一部を割いて梓に上せしもの、病身虚弱の小兒と雖も、適應せる育兒法に従へば必ず強健たるを得べしとは先生の持論にして、通俗平易の間に此大切なる實地問題を説明さる、父母を益する必ずや大ならんと信ず。

大正丙辰仲夏

育兒通信社に於て
天野誠齋誌

病兒及虚弱兒の養育法

目次

- 病兒虚弱兒の特殊養育……………一
身體の抵抗力が薄弱——人一代の基礎は小兒時代の強壯法にあり——月足らず兒でも育つ
- 衣食住に對する小兒の非衛生……………四
積極的衛生と消極的衛生——胃腸を害さぬやう感冒をひかさぬやう——之れは親の手落ち
- 不適當なる保育法……………七
厚着——お乳を飲ませ過ぎるな——體質を薄弱にする原因——母乳全廢の場合には減多にない——下痢をしたり乳を吐いたりする場合

- 母の乳質が悪いため廢める場合……………三
- 母乳全廢の場合は滅多にない——下痢したり乳を吐いたりする場合……………
- 母乳廢止の一例もあり……………三
- 僅かな下痢——乳質に疑ひを起す……………
- 母親の病氣と授乳の事……………二七
- 見當違ひな廢め方——悪性の慢性病——急に發病した場合……………
- 断然母乳を廢すべき場合……………一九
- 母親の脚氣にかゝつた場合——恐るべき乳兒の脚氣——乳兒脚氣の注意すべき容態……………
- 健康なる小兒を病身にする……………三
- 第一に衣服の事——着せ過ぎるな——皮膚を強壯にする……………

- は健康の基礎……………
- 感冒と衣服の取越苦勞……………二五
- 他人の愚説に迷うな——着せ過ぎて風邪をひかせる……………
- 虚弱兒とする厚着の弊害……………二六
- 餘り大事に仕過ぎる——着せ過ぎた一例……………
- 恐るべき周囲の事情……………三
- 薄着ならんとの忠告——若し風邪でもひかせたらと又一枚着せる……………
- 薄着をさせて感冒をひかせる……………三五
- 薄着に失する場合——家事に心を奪はるゝ母親の失策……………
- 厚着か薄着か其の鑑別法……………三六
- 子供の肌に入れて見よ——衣服調節の自得の道……………
- 負ひ袷天と其利害……………四〇

負ひ袷天に對する誤解——呼吸する空氣が冷たいにお氣がつかぬ——袷天で負ふときと卸したとき……………四

○適當なる衣服の種別……………四
 温で軽く薄い品——毛織物を直接肌へ觸れしむるな——
 おむつと毛織物

○衣服の作り方……………四
 筒袖の改良——冷たい風がスウク

○附紐の付け方が悪い——襠褌の改良……………四
 胸部に帶溝——三角おむつ

○哺乳兒時代の足袋……………五
 股引や襟捲——極端から極端

○戸外で寝せ付ける惡癖の矯正……………五
 非衛生的な處置——程度を越すな——小兒が感冒の氣味

であつたら何うする

○初生兒體質の健不健……………五
 自分の子供は何故弱からうか——病氣になると助からぬ
 小兒が多い——産婆の處置——生兒の健不健は小兒科醫
 に聞け——相當の手當をすれば健康になる

○乳兒の抱き方と養育の良否……………六
 搖籃は悪い——搖つて眠らせるな——ハンモックに乗せて搖るな

○哺乳兒の體量と健不健……………七
 先づ體量を測れ——體量の増減で健不健がわかる——
 日の平均増量標準

○檢温器の爲め病氣の買被り……………七
 體温は精確に測れ——檢温器が却つて害をなす

○病氣の起る前兆

病氣の買被り

三

○身體監視の注意

兩親が身體の監督者——大食する飲食物——むら喰ひは
悪い——食物の好き嫌と營養——睡眠状態の監視——親
子一室に寝臥せよ——大切なる大便の注意——次ぎには
小便の事——赤く濁る尿と白く濁る尿——顔色や顔付き
の注意——身體の瘦る事と肥る事——脊骨の曲つたりす
る場合——寝衣を着せかへる時入浴の時

四

○異様状態の注意

三度の食事——食物と密接なる關係ある便の様相——咳
嗽や痰——息切れのする小兒——安眠の出来ぬ場合——
痛み場所のある時——出血——鼻や耳や眼の事——相貌

六

○喰べさせて良い菓子と悪い菓子

と顔色——おでき——發熱——氣分の變化——不活潑な
る舉動——瘦肥——歩行起立發語——いろくの注意を
見逃すな

一〇

元氣——西洋菓子と日本菓子——分量の事——間食の注
意

○虚弱兒の轉地問題

一二歳の頃——四五歳の頃——鹽風は藥

二二

○小兒の健康を圖る遊戯室の位置

南向きの室は誰の部屋——部屋の位置と戶外の運動

二七

○夜泣きは體力の強弱に關係なし

病氣ではない——母親の疲勞——晝間眠らせぬ工夫

二九

○幼稚園に入れる可否……………二五

|| 醫師の立場から ||

母親が一番よく子供を知る——無理をせずに兒童を啓發す

○兒童に最も奨励すべき遊戯……………二六

幼稚園時代の遊戯——凧を揚げ羽根を突け——古來日本の遊戯

○學齡期兒童に適當なる運動法……………二三

運動法が進む——激烈なる運動はやめよ——戶外運動の必要——冷水摩擦と散歩

○感冒後に於ける學業不成績の兒童……………二五

口開いて寝る小兒に注意せよ——小兒に體質を虚弱にする——智慧付がおそい——鼻咽腔の位置——身體に重大な

○入浴後の適當なる處置……………二九

湯冷め——入浴後は一枚着物を多く着せよ

○花時の衛生……………三四

宵越しの食物——急性の腸胃加答兒を起す

○梅雨期は如何に注意すべきか……………二四

食物の注意と感冒下痢——平生の食事を變へるな——食物の腐敗——牛乳コンデンスミルクの變敗——餅菓子

の手摺み

○梅雨期におむつの扱方と小兒の運動……………二四

濕氣を含んだおむつ——運動不足がち

○六月頃に小兒の急激な腹痛……………二五

梅の實の中毒——一種の毒素即ち靑酸

○汗疹の手當……………一五

小兒の發汗——あせもの豫防——石鹼で洗うな

○疫痢流行期の注意……………一五

はやて——夏から秋へかけて流行——疫痢の容態に變ず

——猛烈なる疫痢の誘因

○夏の強壯法……………一六

渴と水——麥湯——果實は煮て與へよ——頭腦と日光——

——夏の遊戯水いたづらと砂いちり

○氷水と蜜柑水……………一五

氷水を平氣で飲む——氷の種類は悪い——蜜柑水や肉桂

水——品質の悪いのは下痢の媒介

○秋の小兒衛生法……………一六

寢冷——急性腸胃加答兒と痙攣——消化機の恢復——食

○乳兒の寢冷から起す下痢……………一五

腸の働きが弱い——腹掛け——晝寢と汗

○柿の爲めに命を取られし兒童……………一五

小遣錢で買喰ひ——腹膜炎に變症

○筍のやうに着物を着せるな……………一五

寒い——氣候——筍の皮を剥くやう

○小兒の感冒豫防法……………一六

注意 哺乳兒時代——入浴の時間——幼稚園時代——氷枕の用

○感冒から肺炎になる……………一六

氣管支加答兒——肺炎の容態——肺炎のいろく

○流行性感冒の手當……………一六

氣管支加答兒——肺炎の容態——肺炎のいろく

○流行性感冒の手當……………一六

氣管支加答兒——肺炎の容態——肺炎のいろく

普通の風邪より重症——併發症が多い——病後の安靜……………一九五

○流行性感冒と恐るべき餘病……………一九七

中耳炎から胸を冒す——應急の治療法……………一九七

○小兒の咳嗽の注意……………一九七

熱が高ければ注意せよ——咳嗽と保護——厚着から咳嗽……………一九七

○寢衣を温めて着せる可否……………二〇〇

虚弱な者は温めても着せる——普通體質なら温めるな——
—乾布摩擦の卓效——乾布摩擦の仕方……………二〇〇

○寒夜に起る呼吸困難の病氣……………二〇四

夜中俄に起す苦悶——假性コロッブと云ふ病氣——其の
特徴……………二〇四

○凍傷及靴の手當法……………二〇九

凍傷の豫防法注意——凍傷の藥——靴の藥……………二〇九

○小兒の喘息……………二二二

實扶的利に似たやうな呼吸——熱の有無……………二二二

○實扶的利の病毒……………二二四

咽喉の狭窄——義膜——心臟麻痺……………二二四

○實扶的利の豫防と血精注射……………二二六

血精注射の效力——時期の問題……………二二六

○實扶的利と氣管切開……………二二八

一時呼吸の恢復——切開術と治療……………二二八

○猩紅熱……………二二九

病氣の特徴——麻疹とは疹の模様が違ふ——恢復期と腎
臓炎……………二二九

○百日咳……………二三五

加答兒期——痙攣期——下降期——急に發熱したら注意……………二三五

○種痘の善感と不善感……………二二六
せよ——迷信と豫病

○麻疹の手當……………二二〇
四五年間は免疫——初生兒と流行期——種痘の準備

○小兒の腸室扶斯……………二二五
消毒した食物——腸室扶斯の容態——熱の下降する時期
の注意——コップブリックの斑點——合併症と病後の衰弱——

○小兒の赤痢……………二二九
下痢から遂に赤痢——血便——良好なる経過の模様

○攝生と服藥の心得……………二四二
小兒特有の性質——攝生が肝心——特別の看護

○病兒の恢復期に油斷するな……………二四五
發病當時と恢復期の親の安心不安心——病氣の再發は恐
ろしい——悪い喰物から大失策——恢復期の攝生

目次終

病兒及虛弱兒の養育法

醫學博士 瀬川昌耆述

□病兒虛弱兒の特殊養育

平生健康な小兒でも、親の注意が届かなかつたり、氣候の關係や食物の事、其他周囲のいろく々な關係からして病氣に罹る事があります。藥一服飲んだ事のないと云ふ丈夫な小兒でも、時に或は重症なる病氣をしないと限りません。小兒時代は幾ら健康でもまだく身體の抵抗力が薄弱故、鳥渡した事にも油斷は出来ません。況して夫れ

身體の抵抗力が薄
弱

が虚弱な小兒であつたり、病身な小兒でぐもあつたら、其の養育法に就ては親達は十分の注意を拂ひ、又特殊の取扱法もありますから、夫々此事を心得て置かないと、容易に健全なる小兒に鍛へ上げることは出来ないて仕舞ひます。

人一代の基礎は小兒時代の強壯法にあり

小兒時代と云ふものは最も大事な時で、大人となつてから身體を強壯ならしむるも、又虚弱な身體にするのも、一代の基礎は小兒の時から築き上げなければならぬ事です。然し虚弱な小兒であるからと謂つて、親達は決して悲觀する事は無用です。保育の方法の宜しきを得れば健康なる小兒にする、強壯なる體質に鍛へ直すことが出来

月足らず
兒でも育つ

るのです。

世間には随分月足らずで生れる小兒もあります。七ヶ月目八ヶ月目位で産れますのは、例のある事です。是等は早生兒と謂つて、なかく育て悪いものです。母の胎内に十ヶ月満足に養はれて居て、夫れから成規の通り生れてさへ、乳兒の育て方は難かしいものです。ですから況して之れが月足らずの早生兒であつたら、普通の小兒よりは一倍も二倍も嚴重に綿密なる注意をして育てなければ不可ません。けれども早生兒であるからと云つて決して育たぬと限りません。其の方法の宜しきを得さへすれば健康なる小兒に劣らぬやうに育つのであります。

去れども若し方法を誤つたら、夫れこそ完全に育たぬばかりか、場合によつては返らぬ不幸を見るやうな事になります。

斯様に月足らずの小兒ですらも、育て方によつては普通の健康兒に劣らぬやうに成育しますから、不健康な虚弱な小兒でも、十人並に育て上げられぬとは限りません、ソコが則ち養育法の可否如何にあるのです。

□衣食住に對する小兒の非衛生

積極的衛生と消極的衛生

小兒は初生兒時代から誕生後一年乃至二年の間と云ふものは、最も保育法の難かしい時です。幼稚園へ往くや

胃腸を害さぬやうか、感冒をひかぬやう

うな時代になり、小學校へ通う時代になると、身體を鍛錬する處の積極的衛生をお勧めする事が出来ませんが、まだ生れて一年か二年では、積極的の衛生は出来ませんが、何うしても消極的の衛生法に従はなければなりません、消極的の衛生法と云へば、例へば夏になつて胃腸の冒され易き時期には、食物を吟味するとか、分量を注意するとか、詰り消化不良を起させぬやうに食物を與へる事を心懸けてやらなければなりません、又冬の寒い時であつたら感冒をひかせぬやうに用心し、寒い處へ連れて出ないとか、寒い思ひをさせぬやうにするとか、總て寒暑の氣候とも之れを避けて豫防して育て行くと云ふやうに致す

衣食住に對する小兒の非衛生

之れは親の手落ち

のです。爾うして漸次に體力も加はり、健康に育つて學齡期に達する頃になつたら單に避けると云ふよりも、夫れに抵抗して往けるやう身體を鍛へて行くのです。最早斯うなれば積極的の衛生に従ふやうになつて、例令寒暑が少し位激しくとも夫れに抵抗し得られるやうにし、寒いから直きに感冒をひくとか、熱いので直きに夫れに感じて消化不良を來すと云ふやうな事のないやうに、強壯なる體格を備へるやうに致さなければ不可ません。世間には養育法の悪い爲めに、生兒をして不健康に陥らしむる例は澤山あります。折角健康なる體質を備へて生れて來た生兒を、親の養育法の悪いために、虚弱にして

厚着やお乳を飲ませ過ぎるな

仕舞などの事は、其罪は親の手落ちにあるのです。先天的不健康な生兒であつたら、兩親の健康に何か申分があつて夫れが爲め、生兒の體質に迄影響を來たし、虚弱な小兒に生れ付くのでありますが、健康な生兒で、申分なき體質を備へながら、衣食住に對する親の取扱ひが非衛生の爲め、遂に其兒をして身體薄弱に陥らしむるのは、實に親として養育の義務に背いたものと謂はなければなりません。まい。

□不適當なる保育法

元來病氣でもない小兒を、妙に親が取越苦勞をして寒

體質を薄
弱にする
原因

くはなからうかと云つて、厚着をさせ、餘計に衣服を着せ過ぎたり、或は戸外の風に當つて感冒でもひかせては大變だと室内にのみ置いて、一向表へ出さないで外氣に觸れさせない親などがあります。又飢餓を訴へもせぬのに少し泣きでもすると、お腹が減いたのではなからうかと云つて、無暗に不規律な授乳をさせ、遂に消化不良を起させたりする、總て病氣にも罹らないのに、殆んど病人扱ひのやうな有様にして小兒を育てたりする事は、實に養育法の當を誤つたものと謂はなければなりません。

生兒の體質を薄弱にする原因はいろいろありませうが、一つは病氣以外の事で親の不注意や不適當なる保育

法のためになるものとも、一つは病氣の爲めに虚弱になるのとあります。

「母親の乳質がよくない事」とか、或は

「無暗に厚着をさせて、夫れが爲めに來す處の弊害」と

か、又は

「附紐の付け方が悪いので夫れが爲めに帶溝と云つて

胸の帶の當る處へ溝が出來て凹くなる事」や又は

「外氣に觸れしめぬ事」

などは病氣以外に體質を悪くする不適當なる保育法であります。

又病氣に罹つて其れが爲め衰弱して、身體の不健康に

なる事は、世の親々の尤も憂ふる處でありませう、病後恢復期の注意と云ふ事は、將來其の兒の健全に大關係ある問題ですから、之れは實に大切な事でありませう。

□母の乳質が悪いため廢める場合

母乳全廢の場合はい減多にな

乳兒を哺育する上から申したら、人乳に優るものはありません、殊に現在産んだ母親の乳であつたら、其れ程適當なものはないのです。故に母親の乳質が悪いので、之れを全廢しなければならぬ場合と云ふやうなのは、減多にありません。能く乳質の適不適に就いて検査をするなど、申す人もあります。

下痢したり乳を吐き出す場合

が、扱今日の學問上から申したら、未だ實際其れが完全な解る譯のものでありません、成程脂肪分が多いとか、或は少ないとか云ふ位の事は解りますけれど、全體に於て夫検査をなし、乳質の如何を證明する事は、残念ながら未だ解つて居ませぬ、然し學理を以て、證明が出来ません、も、實驗上から母乳の悪いため、夫れを全廢せしむる方がよいと云ふ場合は、實に極めて僅少なものです、即ち母乳の性質が、其兒に不適當で、發育上にも非常な悪い影響を與へるから、之れを廢ると云ふ場合は尤も少なし事であると申すのです。然し乳兒が既に腸胃を傷めて仕舞ひ、下痢を醸したり

母の乳質が悪いため廢める場合

乳を吐いたりして、病的の變化を起して来た場合には、消化力が最早衰へて来て居る故、母乳と雖も消化に耐える事が出来ません、爾ういふ場合に望んでは致し方がありませんから、母乳を一時見合せて、重湯を與へて見るとか、又は藥の飲料を與へるとか、種々方法もありますから、其方法に従つて母乳を廢めて見ます。

けれども乳質が悪いから、其の關係で胃腸を悪くし下痢したり、乳を吐いたりして病氣になると云ふ例は先づ殆んど無いのであります。

斯様に申しましても、夫れは絶対にないとは申されません、多くの母親の中に極めて稀に、さういふ例を見た事

痲かな下

もあります、私の診察した中にも此の例がありましたから、夫れをお咄し致しませう。

□母乳廢止の一例もあり

夫れは哺乳兒時代のお子さんで、態々越後からお連れになつたのですが、一日に八九回宛輕い下痢があつて、夫れが何うしても止まらないと云ふ母親の訴へでありました。診察したところでは、下痢のため多少の衰弱はありましたが、左ればと云つて、營養が爾う悪いと云ふ譯でもない、然し一日に八九回宛も下痢しては宜しくありませんから、取敢ず入院させて診察する事に致しました。

此位の程度の下痢であれば、別に悪性と云ふのではありませんが、一通りの手當をすれば大抵は止まつて仕舞ひ、恢復しなければならぬ筈で御座います。處がいろいろと手を盡して見たが、良いと思ふと又直きに素の通り下痢します、扱妙なことがあるものだ。那の通り母親の乳汁も十分あるし、夫れで下痢の止まらぬと云ふ筈はない、殊によると、之れは乳質が悪いので此兒は夫れが爲めの下痢ではあるまいかとの疑念が起りましたから、母親に向ひ

乳質に疑ひを起す

「之れ丈夫手を盡して見て下痢の止まらぬ筈はありません、性の悪い下痢と云ふのでもなしするから、殊による

と貴女の乳質が悪いのではないかと思はれます、モ一何うしても夫れより外に治療の道はありません、一時は乳房が張つて、お兒さんも牛乳に慣すには鳥渡骨が折れるかも知れませんが、直ぐ之から貴女の乳は廢める事に致しませう」

と申しますと

「乳の質が悪いのでは心配で御座います、是程色々治療して頂いても未だ下痢するのでは、恐くは乳が悪いのでせう、仰に従つて廢めて見ませう」

と母親も異議なく私の申す事を聞いて呉れましたから、ソコで牛乳にして夫々手當を施したところ、間もなく下

痢が止まつて仕舞ひ、元氣もよし、營養も追々恢復して來て、最早下痢は無くなりました。

「これは全く貴女のお乳が悪いのですから、據ろありません、牛乳で育てる事になさい」

と牛乳保育の心得をさとし、退院をさせました。

是れは確に母乳の質が悪かつたのですが、然し孰れの點が悪いのであつたか、夫れはまだ今日の學理では解りません、兎に角乳質が悪いので、其兒は下痢が止まらなかつたと云ふ事は明瞭で御座います。

けれども斯ういふ例は實に尠ないので、母乳が其兒に適さないと云ふ事は殆んどないが、稀にはあると云ふ一

例を述べた譯であります。

□母親の病氣と授乳の事

見當違ひ
な廢め方

斯くの如く乳兒を育てますのには、母乳が大切であるが、然し世間の母親の中には「容易く牛乳に代へて仕舞う」と云ふ心得違ひのものがあります。又或る時には、母親が熱でもあると、醫師からして母乳を廢めて牛乳にして御覽なさいなどと申すのがあるやうですが、斯くの如く軽々しく母乳を廢めて牛乳にするなどの事は出來得べきものではありません。之れは餘程見當違ひの致し方であります。

悪性の慢性病

急に發病した場合

母親の病氣に罹つたとき、其の乳を飲ませては悪いと云ふ場合は、乳兒に乳を吸はれる爲めに、病氣の母親は非常に衰弱を來すとか、或は悪性の慢性病——即ち結核だとか、梅毒だとか、癌腫だとか、癩病だとか云ふ病氣に罹つて居つた時は、斷然廢乳させなければなりません。然し左もなくして急性に發病した場合——例へば感冒をひいて熱があるとか、或は食物の關係から腸加答兒を起して下痢したとか云ふやうなとき、夫等に對して授乳を廢めさせなければならぬと云ふ事はないのです。若し斯様な急性に起つた病氣などで、其の乳汁が乳兒に適當しないならば、吐いて仕舞つて、俗に云ふ乳汁が納まらないと云

ふ事になります。萬一其んな事實が現はれたら、夫れは乳汁を全くやめるか、或は分量の加減をするとかして見る必要はあるのです。

□斷然母乳を廢すべき場合

扱母親のお乳は斯くの如く其兒の爲めに最も適當なものでありますが、然し茲に母乳を絶對に廢めなければならぬ病氣がありますから、夫れは注意しなければなりません。

其の病氣と云ふのは

「母親が脚氣にかゝつたとき」

母親の脚氣にかゝつた場合

の場合であります、若し母親にして脚氣の氣味があると云ふ事を知つたら、授乳は斷然見合せなければなりません、母親の脚氣は世間に随分多いので、其の乳を飲んだ乳兒は遂に生命に關する事になります。

之れを乳兒脚氣と稱し、母親の脚氣の毒が感染して起る病氣で、初生兒には最も多いのです。そして此の時代の乳兒が冒されて、脚氣の徴候が現はれますと、病勢の進むことは實に激しいので、遂に之れが爲め斃れるものは澤山あります。母親には軽い脚氣だと思つても、其兒に感染したら、激烈に來ることがありますから、孰れにしても爾ういふ乳は斷然やめると云ふ事を記憶して置かれたい

恐るべき乳兒脚氣

ものです。

一體此恐るべき乳兒脚氣に冒された乳兒は、何んな容態であるかと云ふに、乳汁は吐くし、大便は青綠色になつて、且つ小便の通じもよくありません。夫れに第一元氣が悉皆なくなつて仕舞つて、眼はドンヨリとして、顔に少しも生々した處が見えませんが、所謂無欲の状態に陥つて仕舞ひます。

乳兒脚氣の注意すべき容態

其他顔色は悪く、泣聲は皺噎れてヒー／＼と云ふやうな有様に泣立て、何を飲ませても咽せて仕舞つて十分に飲み得ません、夫れから上睫は半ば垂れて、半開の有様になつて居ます。

斷然母乳を廢すべき場合

先づ斯ういふ病狀を發見したら、少しも猶豫せず、醫師に診察をお受けなさい、乳兒が既に斯ういふ状態になつて、乳兒脚氣に罹つたとしたら、母乳は斷然廢めなければならぬのです。尙つゞけて脚氣の乳を飲ませて置けば遂に一命に關する事になるから、速に廢乳せねばならぬと云ふ事をお忘れのないやうにして置かれないものです。

□健康なる小兒を病身にする

小兒が不幸にして病氣に罹り、夫れが爲め身體が虛弱になつてすら、其兒の爲めには實に不便な譯であります。

第一に衣服の事

ものを、況して病氣以外の事で、親の處置が悪く、養育法の誤りからして、其の兒が身體虛弱になり、果は病身になつたりするやうな事があつては、實に其兒は慙れむべきもので、同時に其の親の責任も大なるものであります。扱育兒上の事で、何時も世の母親が誤りを來し易く、折角丈夫な體質を備へた乳兒を、遂に弱い兒にして仕舞うのは先づ第一に衣服の事であり、ます。衣服の調節と云ふ事は、氣候と最も密接なる關係を有するのは、申す迄もないが、孰れの場合に於ても、小兒の身體に適當した度合に衣服を着せて置くのは、最も大切な事であり、ます。然るに此の適當なる度合に衣服を着せ

着せ過ぎるな

て置くこと云ふ母親は、兎角少ないので、多くは其の度合を通り越して、着せ過ぎると云ふ弊害があつて困ります。着せ過ぎると云ふのは、則ち厚着をさせて置くので、爲めに皮膚を弱くし、延いて身體の虚弱を醸すことになり

ます。皮膚を強壯にするのは、小兒の健康法として、特に勧めするのであります。皮膚が強壯であれば、従つて感冒をひかぬやうになります。古からの諺に

「感冒は萬病の基」

皮膚を強壯にするのは健康の基礎

と云はれますが、實際夫れに相違ありません。感冒からして、色々な病氣が起りますが、扱此の恐るべき感冒も皮膚

が虚弱であつたら、兎角之れに冒され易いではありませんか、之れを例へて申したら、身體へ甲冑を着せたやうなもの、で、丈夫な皮膚には自然身體強壯と云ふ意味が附隨して居ります。

斯様に小兒には、皮膚を強壯にする事は大切でありますから、是非皮膚を鍛へるやうにさせたいものです。處が鍛へる處ではなくして、厚着をさせた爲め、遂には皮膚を薄弱ならしむるに至つては、實に非衛生なる取扱ひでは御座いせんか。

□感冒と衣服の取越苦勞

他人の愚
説に迷う

小兒には兎角衣服を着せ過ぎて、適當なる度合を失うに至ると云ふのは畢竟種々周圍の事情など誤解を招く種になります。

少し氣候でも寒いと、「ソレ感冒をひきはしないか」と云ふやうに、親は取越苦勞をして、又餘計に着物の一枚も着せるやうな事をします處が小兒の身體の方から申したら、此の餘分に着せて呉れた一枚の着物は全く必要のないばかりか、却つて夫れが爲めに厚着になり過ぎて皮膚は汗をかくと云ふ仕末であります。小兒は普通汗をかくものではありませんが、厚着に仕過ぎると直に汗ばむとか、又は汗をかきますが、斯様な様子が見えたら、

着せ過ぎて
風邪を
ひかせる

「之れは餘計に衣服を着せ過ぎてある、寒いと思つて着せたが、小兒には實際寒くはないのだ」と云ふ事を判断し、餘計に着せた着物は、早くぬがせて適當なる調節を圖る事が最も大切であります。

世間の親達は能く斯ういふ事を申されず、
「着せ過ぎて風邪をひかせる事はないから」

と云ふやうなお咄しを折々伺ひますが、實は着せ過ぎる即ち厚着をさせると云ふのは、皮膚を汗ばませ自然其の習慣から皮膚を薄弱にするに云ふ事になるから、皮膚を弱くしては、注意仕すぎて、却つて夫れが感冒をひき易い基になるのです。斯ういふ誤解は往々見るところで、何

時も此事は親々に深く御注意を申すが夫れでも、「感冒をひかせては大變だ」と云つて、厚着をさせるお方が多いので困ります。

□ 虚弱兒とする厚着の弊害

嘗て或る患者から、小兒が風邪をひいて熱が少しあるから、是非來て診て呉れと云ふ電話でした、此のお宅では非常にお兒さんを大切に、寧ろ餘り大切に仕過ぎはせぬかと思ふ傾きのある程です。

私は時間の都合をして往診しました、患者は女のお子さんで、診断の結果、爾う別に之れと云つて悪い處もあり

餘り大切に仕過ぎる

ません、少し感冒をひいて、夫れが爲め僅の熱が出た位の事です、仍つて此事を家人にお咄しすると、親達も安心されて「其れでは日の中は起して置いても差支へありませんか」と尋ねますから、

「寝せて置く程の病氣ではありません、只朝夕少し注意して寝せて置いたら、二三日中には平常の通りになります、ませう、が然し此のお子さんの衣服の着せ方が非常に宜しくない、ので却つて开んな事からして感冒を悪い方へ導くかも知れません」と申しました。親は心配して、

着せ過ぎ
た一例

「夫れでは何んな鹽梅に着せたら宜しいのでせうか、まだ着せ方が少ないのでせうか」

「否々、着せ方が少ない處ではありません、餘り着せ方が多過ぎるのです。斯う幾枚もくも澤山着せては温度の調節を失つて、却つて夫れが爲め害を醸します、御覽なさい此のお子さんは此通り皮膚が汗ばんで居るではありませんか、斯んな輕症な病氣ならソ一御心配にならずとも宜しいので、又皮膚を汗ばませて置くのは却つて感冒をひく基になりますから、斷然着物に襦袢を一枚お脱せなさい、夫れで丁度此のお子さんの衣服は温度の調節を取るに適して居ることになります」

と申したところ、母親は、成程爾うでせう、と云はれて私の意見に従ひ、着物を脱がせて、丁度良い度合に着せて置かうとしますと、傍に居た老母さんが不賛成でありました。

「感冒をひいて居ると云ふのに、此上薄着にさせて何うなさる積りでせう、屹度夫れでは感冒を悪くして仕舞ひますからマア脱がせるなら襦袢の一枚も」と云ふ事になりました。

私も尙懇々厚着の弊害をお咄し仕て歸りましたが、随分斯ういふ例は澤山御座います。

□恐るべき周囲の事情

薄着なら
んとの忠
告

夫れに厚着に失せしむると云ふ事は、周囲の者から母親をして不知不識餘計に着物を着せ過ぎて仕舞はせま

す。
世間には能く斯ういふ例があります。

小兒を抱いて、戶外へ出ますと懇意な人に逢ひませう、女同士の事であると、時候の挨拶などをお互に述べまし

て、
「天層マアお可愛ではありませんか」

などゝ小兒のお愛想をしますが、衣服を着せた様子など見まして、

「此の寒いのに餘り薄着で御座いませう、モット着せて

上げないとお感冒でもひくと不可ませんよ」と注意します。

「イエ餘り厚着をさせると却つて爲になりませんから」
母親は確に薄着ではないと信じて居ますと、

「夫れでも近頃は風邪が流行りますから、木轉ばぬ先きの杖ですよ。着せ過ぎて害にはなりませんから、お風邪でもひいたらお可哀さうちや御座いませんか」

自分の小兒でもあるやうに世話を焼きますから、母親もツイ風邪の流行ると云ふのに釣込まれて、

「ホンに爾うで御座いますネ、萬一風邪でもひかせると不可ませんから早く歸つてモー一枚も着せませうよ」

若し風邪
でもひか
せたらと
又一枚着
せる

遂々隣人の云ふに任せて風邪が流行るから、若しも感冒でもひかせては取返しが付かぬと、杞憂の念に驅れて厚着の弊を知りつゝ、厚着をさせます、周囲の人から彼是謂はれて、夫れに迷うと云ふのは一ツには、母親として十分小兒に對する保育上の確信がないから、御座います。如何に風邪が流行るとは申しながら、厚着をさせて夫れで風邪を豫防すると云ふ事は出来ず、寧ろ夫れよりも吾兒の身體に適當する度合に、衣服を着せ置いたら、夫れに越したことはないのです。に、世間には斯ういふ例があるのは、育兒上頗る遺憾とする處であります。之れは母親となつたら、能く注意を拂つて頂きたい。

薄着に失する場合

□薄着をさせて感冒をひかせる

厚着と反對に、衣服の薄着に失すると云ふ事は最も宜しくないことで、夫れこそ風邪を惹かせ、熱が出るとか云ふやうな事から、何んな病症を併發しないとも限りません。

然し世間の親々の様子を見ましても、薄着に仕過ぎて感冒をひかせたと云ふ事は、先づ大抵は少ないのです。親の情として、「寒くはないか」「感冒でもひきはせまいか」と取越苦勞をするのが、先づ世間一般の母親の常で御座います。夫れ故、薄着に仕過ぎると云ふ事は殆んど少ない

が、然し斯う云ふ場合には薄着の爲めに感冒をひかせた不注意の例があります。

朝夕は氣候が寒く、日中は大分熱いと云ふやうな秋の小春日和や、春先などには、夕方になつても日中に着物を着せて置いた儘にして、ソコまで注意が届かずに感冒をひかせると云ふやうな事が無いと限らない。

家事に心を奪はるる母親の失策

母親は夕方家事向きの忙がしいのに取紛れて、小児が日中の熱いときの儘の薄着で居るのも心付かず、早く用事を片付けて仕舞はうと、母親は其の方にはかり氣を取られて居る。小児の方でも夕方になつて、ツツと氣候が寒くなつて來たが、寒いとも言はずに遊んで居る、其の間に

小兒は感冒をひいて仕舞うし、母親は用事が片付いてから、始めて吾兒の薄着で居たことに心付き、

「寒くはなかつたかい、サア羽織をお着なさい」と謂つて急いで着せても、何うやら小兒は感冒をひいた様子、夜に入つてから熱が出ると云ふやうな始末に陥ることは、往見聞する處です。

夫れ故朝夕並に日中、寒暑の氣候が著しく變化のある季節には、よく、小兒の衣服の事に就いて注意させたいのです、先づ薄着の爲めに、風邪をひかせると云ふのは、斯んなときの事で油斷すると不可ません。

子供の肌
へ手を觸
れて見よ

□厚着か薄着か其の鑑別法

處で親達から能く質問されますのは、何の位の程度までが厚着で、何處までが丁度能い着せ方の度合か、又何れ丈着せて置いては薄着になるかと、云ふ事であります。成程、之れは一應御尤なる御尋ねで、厚着にさせては皮膚を弱くし、延いて小兒を虛弱ならしむる基だと、保育上随分嚴重に御注意申すから、厚着か薄着か、又中庸を得た着方か、夫れは何の位の程度がよいのかと反問されるのは親として當然の御質問と思ひます。私は此標準に對して、常に斯う云ふ事をお答へします。

衣服調節
の自得の
道

夫れは前にも述べた通り、
「若し厚着か厚着でないかを知らうと思ふなら、其お子さんの肌へ手を觸れて御覽なさい、爾うすれば直ぐ判断が付きます。即ち厚着に失して居れば、寒い氣候であり乍ら、お子さんの肌は汗ばんで居ます。若し適當なる着せ方であつたら、小兒は普通汗をかいて居るものは御座いませぬ、之れを御承知になつて居れば、厚着か薄着か爾う難かしいと云ふ懸念もありません。」
薄着に就ては、親が注意してさへ居れば、其の心配は殆んどありません、夫れに毎日小兒を取扱つて居て見れば、衣服調節の程度は、大抵自得されるものです。故に厚着に失

厚着か薄着か其の鑑別法

せぬやう、小兒の肌へ手を觸れて見れば夫れが厚着か或は中庸の度合か直ぐ判ります。決して難かしく考へ過ぎずとも、面倒な事もなく簡短に分るものです。

□ 負ひ袴天と其利害

負ひ袴天
に對する
誤解

夫れから負ひ袴天の注意も矢張り小兒の衛生上見道すべからざる事であります。

冬の寒い日などに、小兒を綿の厚い袴天で脊負ひ、頭巾などを深く被せて、

「之れなら感冒をひかせる事もあるまい、十分温かにしてあるから」

と母親は安心して寒い風をも構はずに出掛けます。之れは大なる考へ違ひで、動もすると乳兒に感冒をひかせる機會を與へるので困ります。

能く考へて御覽なさい、乳兒の身體丈は綿の厚い負ひ袴天に包まつて、頭の方には毛の頭巾でも深く被つて居れば、ポカ／＼温いには相違ありません、素人は之れを見て、單に温いのに風邪などひかせる憂はないと速斷を下すのでありませうが、之れが抑も大間違ひの事になります。

斯様に身體だけはポカ／＼と温になつて居ても、戶外の極寒の空氣を呼吸するでありませう、肝心の空氣が此

呼吸がす
空気が冷
たぬがに
おたぬか
かぬか

の通り冷たいのですから、爲めに呼吸機管の粘膜を冒されて感冒をひかせて仕舞ひます。故に綿の厚い温い負ひ袷天で包んで出ても、呼吸する空気の厳しく冷たいのに心付かないのは、詰り一を知つて二を知らざる注意の屈かぬ處であります。僅かの事の手落ちが保育衛生の上は大なる關係を生ずるものでありますから、斯ういふ事は、よくよく心得て居て貰ひたいものです。尚も一ツ負ひ袷天の事で注意したいのは、負はないときと、負つたときと、衣服の調節の工合が同じになつて居ると云ふ弊害のある事です。言換へて見れば負はないで室内に遊ばせて置くとき着せた儘で、直ぐ負つて、袷天で

袷天で負
ふときと
卸したと

包んで仕舞うし、袷天から下しても亦着せた儘にして置く、これは衣服の着せ方の上に餘程手心を要さねばならぬ事です。袷天で負うときには、小兒の着物を一枚ぬがせて少し薄着にして負ふのです。开して袷天からおろしたら、また負う前の通りに着物を着せて置くのです。これは大抵の母親が注意はされて居るやうですが、其れでもまだ心付かぬお方もあるやうに見受けますから、初めて小兒を有たれた母親などの爲めに、特にお咄し仕て置く次第です。

温で軽く
薄い品

筒袖の改
良

□適當なる衣服の種別

小兒の着物の事に就ては、大分嚴重な事を申しました
が、扱ふれ等は如何なる種類のものを選んで宜いであ
らうか、何んな種類のものを作つたら尤も適當して居る
であらうか、之れを知つて置く必要が起りませう。
夫れには、温かで、軽くて、薄いものがよいのです。斯う申
したら、則ち毛織物で作るのが一番可いので、之れに適當
して居るのであります。
然るに毛織のものが可いと云ふと、上から下まで毛織
のもので作つて着せるお方がありますが、之れは間違つ

毛織物を
直接肌へ
觸れしめ
ぬ事

た仕方でありませう。

小兒の肌へ直接觸れる處の肌着は、毛織類で作ること
は禁物であります。那の軟弱い皮膚へチク、くする毛織
物が直接に觸れては、小兒は其れが爲めに悶へなければ
なりません。斯くの如き不安を與へ、刺戟を與へることは
禁物です。故に肌へ直接觸れる處の襦袢の類は地質の餘
りよくない、晒し木綿の水に入つたもので造つたのが可
いのです。开して夫れは絶えず清潔なものと着換へさせ
てやる事が出来るやうに、幾枚も用意して、取換へ引換
へ、清潔なる肌着と着換へる事の出来るやうに仕たいの
です。

おむつと毛織類

襦袢の如きものも矢張り、毛織類は不可ません、肌着やおむつをメリンスなどで造つては可くないので、矢張り晒し木綿の水に入つたものに限ります、毛織類が小兒の皮膚へ直接觸れるのは宜しくないと言ふ事は心得てお置きなさい。

□衣服の作り方

衣服の種類に就て其の選び方を述べましたが、作り方に就て注意したいことがあります。

夫れは筒袖の脇を明けて置くのが悪いので、斯ういふ筒袖の作り方は是非改良したいのです、ナゼ其の脇を明

冷たい風がすうすう

けて置くかと云ふ事に就いて聞いて見ますと、脇を明けて置かぬと、小兒の脇の下が蒸れて仕舞うから、夫れで那の通り明けて置くのだと申しますが、之れは小兒の衣服衛生の上から観ますと、却つて感冒などの原因となるやうに思はれます。

着物ばかり厚着になつて居ましても、脇の下が那のやうに明いて居ますと、ソコから冷たい風がスウ／＼通ります、爾うすると脇の下の皮膚は冷たい風のために、肌が冷るから遂には感冒をひくやうな事になります、斯ういふ筒袖の作り方をして着せますことは、是非改良して欲しいのです。

胸部に帶溝

□附紐の付け方が悪い——襁褓の改良

小兒の附紐の事は、母親が深く注意しなければならぬことですが、其の割合に注意が届かんで困ります。附紐の爲めに胸廓を緊束しますと、胸部に溝のやうな凹みが出來ます。之れを帶溝と申して、發育上非常な害を迨ぼすものです。夫れ故附紐の爲めに無暗に胸部を緊く縛ることを避け、そして附紐が餘り上部に附くから之れは改良しなければ不可ません。

然し此の帶溝は獨り附紐の罪ばかりではありますまいと私は考へます。日本流の襁褓の當て方を見ますと、

三角おむつ

襁褓を當て、夫れを更に紐の付いた布で其の上をくろみ、紐を結んで止めて置きます。處が小兒の腹部は那の通り多くは肥滿して居て、臀部の方は小さいのですから、襁褓がずれて落ちないやうにする、勢ひ紐を緊く胸部へ結束らなければなりません。して見ると帶溝の出来るのは、附紐の關係のみでなく、従來行はれて居る襁褓の爲めにも、之れが出来やうかと考へます。

西洋の三角襁褓は此點に於ては、害がありませんし、夫れに頗る簡便に用ひられますが、之れとても生れてから一年も経つてソロ／＼這ひ出したり、起つたりするやうになると、留めて置いたピンが緩んで來て、直きに落ちて

仕舞ひます。斯うなると三角襪でも困る點があります
けれど、帶溝は防ぐことが出来ます。

□哺乳兒時代の足袋

股引や襟
捲

夫れから小兒に股引を穿かせたり、襟捲をさせたり、腹
懸けをさせたりする事に就いても、是迄屢々注意して置
きました。が、何うも例の取越苦勞からして、厚着と同じや
うな弊害を醸し、遂に小兒をして虚弱に陥しいる傾向の
あるのは、慨はしい譯ではありませんか。
然し寒い冬の日、小兒に足袋を穿かせるなと云ふや
うな極端なことは決して取らざるところです。總て極端

極端から
極端

に走るの、最も宜しくないことです。
まだ乳を飲む乳兒時代には、足袋を穿かせずとも濟み
ます。何故ならば、衣服の裾が長いので、兩足は裾の爲めに
包まれて居ます。夫れ故穿かせる必要はないのです。
一體构子定規な行りかたや、極端な事は、保育上取らざ
る處です。から、斯ういふ事のないやうに致されたいもの
です。

□戶外で寝せ付ける悪癖の矯正

小兒を外へ出して、外氣に觸れしむる事は、發育上最も
大切なことであります。のに、動もすると室内にのみ閉籠

非衛生的な處置

めて置いて外氣に觸れしめぬやうな、非衛生的な處置があつて困ります。

戸外に出て新鮮なる空氣に觸れしめ、日光に當ると云ふ事は、小兒の發育上に必要なことですが、斯う申すと寒中極寒の日に風に吹き曝されて居ても、敢て夫れを止めないと云ふ親もありますやうです。既に三四歳になつて、幾分かつ、體力を固めて行く必要がある時代でも、程度を越して寒風に吹曝されるやうな事があるのは宜しくありません。

又小兒によると眠るときに、必ず戸外へ出なければ泣いて居て眠りにつかぬ習慣のものが有りすけれど、之れ

程度を越すな

小兒感冒の氣味であつたら何うする

は非常に悪い癖で、初めから斯ういふ癖をつけたのは全く親の手落で御座います。冬の寒い夕暮などに母親や子守などが泣き立てる小兒を抱くとか、脊負うとかして眠らせやうと守唄など唄つて居ることは、往々見受ける處であります。既に冬の夕暮など乳呑兒を戸外へ連れ出すのは宜しくない事であるのに、若しも此の小兒が感冒の氣味でぐもあつたら何うするでありますか、乳呑兒杯は實に正直なもので、附いた習慣に従はなければ容易に眠らないし、又其の習慣も非常に附き易いものです。故に感冒でもひいたときは、室内に寝せつけやうと母親が如何に苦心しても、何時と習慣が違ひますので、乳兒は火の

戸外で寝せ付ける悪癖の矯正

付くやうに泣きたて、眠るどころではありません。斯ういふ場合には随分親も困りませう。故に乳呑兒は冬の日など朝早く戶外へ連れ出したり、或は夕方遅くまで戶外に遊ばせたりする習慣は、斷然廢めなければならず、又假りにも爾ういふ悪い癖の附き易い事は初めから注意しなければなりません。

□初生兒體質の健不健

小兒の保育や衛生上の事に關しては、少しも缺陷のないやうに十分注意を加へ大切に育てるとも、動もすると下痢を起したり、感冒をひいて熱が發たりして夜も碌に眠

自分の小兒は何故か弱からう

らずに心配する事があります。何うしたら健康に育つてあらうかと親は自分の事を忘れて一生懸命に力を盡しても、夫れで矢張り虚弱い兒が多いやうです。

處が夏など小兒を連れて海水浴にでも往つて見ますと、漁師の子が炎天を素裸で飛んで歩いて居ます。聞いて見ると生れてから未だ薬一服飲んだ事なく此通り健康で、生水を飲ませてでも仕合せと中毒た事などないさうです。育兒法になど重きを措かぬ漁師達の小兒は自然に任せて那の通り無病息災であるに、熱心に保育法を守り衛生の道に注意してすら、自分の兒の虚弱いのは餘り不思議な事であると、非常に疑惑の念を抱いて種々と此理由

をお尋ねになる親達があります。

成程此お尋ねは一應御尤な事で、御不審を起すのは無理の無い譯ですが、之れは健康に育つた漁師の兒ばかり見て、夫れを自分の虚弱い小兒と比較するから、如何にも育兒法など當にならぬやうな妙な考へが起るのでせう。育兒上の智識が幼稚な時代は、眞の健康兒丈は疾病に打勝つて生存して居ましても、其他の虚弱兒は病氣に罹つたが最後、迎も助命る事が尠ないので、漁師の小兒達も完全なる育兒法の下に養育されぬ事は、育兒の幼稚な時代に似て居ますから、健康な小兒は炎天に曝されたり、沙水を浴びたり、生水を飲んだり、衛生法に背いた無理な事

病氣に
ると助
か
らぬ小
兒
が多い

をして、夫れでも幸に故障を起さず健康に育ちます。然し又一方から見ると、如何に漁師の兒でも虚弱い體質に生れた子供があつて、他の健康な兒と一緒になつて衛生法に背いた無理な事をしたら、夫れこそ堪りません、忽ち病氣に冒されて遂には治療も届かずに斃れて仕舞ひます。夫れが證據には、滿一ケ年にならぬ小兒は腸胃の疾病に罹り易く、如何程醫藥を盡しても助からぬのが斯ういふ社會の小兒に多いではありませんか。

夫れ故、育兒法の何たる事を心得ずに育てるのと、完全なる育兒法によつて育てるとは、既に生後滿一ケ年以内に於いて、其子の幸不幸の境界が劃然と定まるのが多い

のです。故に小兒死亡數を統計表に作つて見たら、常に羨ましいと思つた漁師の兒の方が全體の上から見ると必ず死亡率が多いと思ひます。斯うなつて見ると、嚴正なる育兒法の下に養育した小兒は、假令一時は或る健康な漁師の兒に劣りて虚弱からうとも、此漁師の兒が幸に生活の力が強かつたので、他には生存の力に堪へずして斃れる小兒が多いのですから、顧みて夫れを思ふと、一般に漁師の兒の體質が強ち羨ましい事もあるまいと思ひます。殊に又虚弱なる體質の小兒でも、其保育法にして宜しきを得れば、再び強壯なる體質に歩を進め、羨ましく思つた漁師の健兒に比較して敢て遜色なき壯健なる體格とな

産婆の處置

し得る事が出来るのです。

月満ちてお産の紐を解くときは、産婆が来て産婦から嬰兒の始末をする事になつて居ます。産婦は別に身體の異常さへなければ、其儘安靜にして床に就かしめ、又嬰兒は臍帶の處置をなし、産湯を浴はせて、身體を清潔に洗ひ夫れが濟むと産衣を着せて豫て用意の床へ靜に寝ませます。之れで先づお産の一段落をつけましたが、母子共別段變りがないやうなら、醫師を招く迄もなく、産婦の肥立つ頃迄産婆が見廻つて、夫れ々手落ちの無いやうに注意を與へるのが從來の習慣でありました。

然るに近年衛生の道が進歩すると共に、心ある人々は

産科醫を招んで一應産婦の健康診断を受けさせますが、之れは肥立ちの上にも密接なる關係があります故、産科醫の注意を聞いて其意見に従ふのは誠に緊要な事であり、ます。産婦の爲めには産科醫の健康診断を受ける迄の注意が屆きながら、生兒の爲めに小兒科の醫者を招て健康診断を受けると云ふ家庭は未だ至つて尠ないやうです。健康診断は矢張り初生兒の將來に於ける健康の如何に大なる影響のあるもので、小兒の醫學が進歩發達するに従つて益々此必要を認められて來ました。故に「嬰兒の事は産婆に聞けば大抵解る」と云ふ時代は既に過ぎ去り、嬰兒には生れ乍らにして既に素人の眼に解らぬ種々な

生兒の健
不健は小
兒科醫に
聞け

病氣のあるものが多いし、又不幸にして虛弱なる状態をもつて産れるのが澤山あります。爾ういふ事を少しも心付かずに適當な處置をも施さず打捨て置いたら、日を経るに従つて種々の故障を起すのは全く無理はありません。

嬰兒の外形に現はれた身體の不具は、素人にも一見して解ります。例は兔唇とか六ツ指と云ふやうなのは、一番先に眼に付きますけれど、肛門の閉塞つて居ることなどは往々心付かず胎尿をしないので不審に思つて此事を醫師に尋ねる人などあります。診察して見ると肛門が塞がつて居るが、之れでは胎尿の洩れやうがありません。肛

門の閉塞つて居るのは外科手術をして道を付ければ夫
 れで何等の仔細も残しません、兎唇でも六ツ指でも、嬰兒
 の時は丁度飴細工をする様に不具でも樂に治ります。
 最も見易き外形に現はれたる部分ですら、肛門の閉塞
 など往々知らずに居るものもありますから、況して身體
 の内部に故障があつては却々素人には發見する事が出
 來ますまい、殊に嬰兒には内部の疾病が得て有勝ちのも
 ので、心臟の働きが弱いとか、親の微毒を受けて居るとか、
 或は麻毒に感染して居るとか、随分油斷のならぬ容態の
 現はれて居る事がありますから、先づ分娩して差當り初
 生兒の健康如何を卜知する事は最も必要で、夫れには小

兒科専門の醫師に健康診斷を受ける事が緊要なる條件
 であります。

假りに疾患があるにしても、健康診斷の際に發見し速
 に相當の手當を施したならば、大事にならない中に早く
 豫防處置を施す事も出來ませうし、又醫師の注意を確く
 守つたら假令不健康な缺點はあるとしても、再び健全な
 體格に恢復することが出來ませう。

□乳兒の抱き方と發育の良否

乳兒の抱き方などは、爾う嚴重に謂はないで、何う抱い
 てもよささうなものです。が、決して爾うでありませぬ。抱

搖籃は悪
 い

揺つて眠
らせる

き方は發育の上にななる關係が御座います。西洋では小兒が生れますと搖籃へ入れて揺ります。爾うすると小兒は妙に泣きやみ、スヤ／＼と眠ります。之れは心持ちがよくなつて眠ることゝばかり思つて居たが爾うでない、茲に一つの大缺點のある事を發見されました。夫れは揺るために大切なる腦を麻痺させて仕舞うのです。恰度小兒に麻酔藥を與へて眠らせるやうなもので、機嫌のなほるのも、安眠するのも、實は腦を麻痺するからであります。此缺點を近年迄知らなかつたのでした。處が我國に於ても、此搖籃で揺ると同じやうな缺點があります。即ち乳兒を抱いて揺つてスヤ／＼と眠らせ

ます。この有様を他から見ましたら如何にも人情の籠つた美しい事のやうに見えますが決して爾うではありません。機嫌よくスヤ／＼と眠るのも、詰り腦を麻痺させる爲です。小兒に麻酔藥を飲ませて眠らせるのと同じ理窟です。之れは是非改良しなければならぬ事です。其外にも一つ悪弊のあるのは、乳兒を抱いて脊中をたいてやる事です。之れも乳兒の機嫌が直つてスヤ／＼と眠ります。此の習慣は乳兒の發育上如何なる影響を及ぼすかと云ふに、抱いて揺る程の弊害はないが、唯其弊害が多いか少ないかの二點にとどまるのです。故に時間を長く爾う

ハンモックに乗せて揺るな

して強くたゞくのは最も悪い、乳兒が泣けば泣く丈強くたゞくやうだが夫れは宜しくない事である、先づ守唄でも唄ひ乍ら、ホンの間の拍子に脊中を叩く位の程度なら差支はないが、兎角強く永くたゞいて居るので困ります。夫れから近頃大分多くの家庭で見受けることですが、乳兒をハンモックへ乗せて揺つて居ます。殊に之れは所謂、ハイカラの御婦人がたに多いかと思はれます。家庭の事を改良して都合よく工夫するのは誠に結構なことで、ハンモックを釣つて夫れに乳兒を乗せて置くなどは、西洋の家庭書には見受けませんが、實際に於て之れは乳兒の爲めに宜しくありません。詰り揺籃でゆするのと同じ

の理であります。ハンモックへ乗せて動かさずに置くのは、實に不可能の事で自然動かすやうな方法になつて居ますから、之れは乳兒を眠らせるには全廢するやうに致したい、揺籃の弊害を知り、抱いて揺ることの弊害を知つたら、ハンモックへ乗せて揺つて眠らせる事の弊害は御了解になりませう。

□ 哺乳兒の體量と健不健の状態

先づ體量を測れ

健康なる哺乳兒であつたら、其の體量は日々に増加するものです。夫れですから、愛兒の健康か不健康かを知らんと欲するには、少くとも一週間に一度なり、或は二週間に

目に一度なり、必ず體量を量つて見て、夫れを記とつて置いて、能く比較して見ることが必要であります。

萬一其の都度々々體量が増さぬやうでありましたら、夫れこそ、何處か身體に缺點があるのか、或は親の育て方が悪いのか、左もなくんば、何か素人に判らぬ病氣が潜伏して居るのか、孰れ斯んなことのあるものと推定を下さなければなりません、之れを知らずに居ましたら、小兒は益々虚弱になるか、或は發病でもするか知れません。

「故に親が推定して、早く夫れに氣の付くと云ふのは、全く體量を量ることでありませう」

哺乳兒の體量の増え方は、生れし最初の六ヶ月はツン

體量の増減で健不健がわかる

一日の平均増量標準

ツン肥つて、増量の早いものですが、夫れから後の六ヶ月は、其の割合には増量しません、即ち哺乳兒時代に於ける増量の模様は、日を重ぬるに従つて、漸次に其の割合が減じて往く譯です。

哺乳兒の平均一日の増量標準を茲に記しませう。

一月	六匁七五
二月	六匁二一
三月	五匁九四
四月	五匁四〇
五月	四匁〇五
六月	三匁七八

七月	三匁二四
八月	二匁七〇
九月	二匁四三
十月	二匁一六
十一月	二匁一六
十二月	一匁六二

斯んな割合で一日々々と體量が増して行のです。そして生後一ヶ月平均一日の増量と、十二ヶ月目の増量とは餘程比例の違つて來ることとも、よくお解りになりませう。

□ 檢溫器の爲め病氣の買被り

檢溫は精確に測れ

小兒を育てるに就いて、必要なる檢溫器は近頃は心ある家庭には大抵備へ付けてない處はありません。小兒は獨り感冒のときのみでなく、下痢しても亦其他の場合にも鳥渡した病氣でも、熱の昇り易いものです。熱——體溫——を測つて置くと云ふ事は、醫師の診療する上に於て有力なる参考となることですから、精確に測つて置くことは緊要なる事です。

處が檢溫器の備付けてある爲めに、小兒が感冒をひいて熱でもあると、無暗に熱ばかり取つて見て、母親が第一に神經をなやませて仕舞ひます。小兒が病氣にでも罹つたときには、傍に附添つて居る母親が一番心を落付けて

看護しなければならぬものです。然るに其の肝腎な母親からして神経をなやませて仕舞うやうになつては、小兒の容態すらも、那れか是れかと迷つて仕舞つて、確乎した事を主治醫に報告する事さへ出来ないで仕舞ひませう、斯ういふ風な譯では、小兒の病氣を確乎と誰が看護するでせうか。

検温器が却つて害をなす

検温器のある爲めに、病氣の小兒を幾度も熱を測かつて見たりして、終に安静を缺くやうな事に陥らしめたり、或は左程悪くもない病氣を、餘り庇い過ぎて仕舞つて大病人扱ひにして仕舞つたりします。之れは検温器を悪用したとでも申しませうか、兎に角検温器の備へつけてあ

る爲めに、小兒の病氣を買被つて仕舞うのです、斯ういふ事は、能くある例で、私の病院などへお連れになる親御さんなどにも、度々此事を御注意申し上げるのです。

□病氣の起る前兆

病氣の買被

検温器のある爲めに、小兒の病氣を取越苦勞したり、或は左程悪くもない病氣を買被つて重く考へたりするのは、宜しくありませんが、然し小兒の身體に何か異常がありはせぬか、又異常が起りはせまいか、何か病氣の起る前兆ではあるまいかと、早く夫れを見出すのは最も緊要な事であります。

夫れには健康なる小兒の狀態を標準と致します。其の標準に従つて小兒の身體を監視しなければ不可ません。獨り身體を監視すれば、夫れで小兒の身體の異常が早く解るかと思ふと、爾うは往かない。一體小兒の異常とは何んな徵候があるのか、夫れを併せて心得て居なければ早く判断が下りせん。

小兒の身體監視の事から異様狀態の注意は、病兒虛弱兒の保育上大切なことですから、之れを比較對照して述べませう。

□身體監視の注意

兩親が身體の監視者

大切な飲食物

問「吾兒の身體を監視するのは誰が一番注意しなければなりませんか」

答「夫れは無論兩親が自身に行ふべき事であり、一體小兒を育てるのに、奉公人任せや他人任せで十分に注意の届く譯のものではありません。吾兒なればこそ兩親の注意は實に他人や奉公人の注意以上の注意が届くのです。よく、事情の許されぬ場合なら兎も角も、大抵の事情は排斥しても兩親自身に監視の責に任じて貰ひたい」

問「一體小兒の身體に對する監視は何んな風にしたら宜しいのでせうか」

答「夫れは先づ第一に飲食物であります。素より飲食物の事は各其の小兒によつて、夫々注意を加へなければなりませんし、又度合もよく見計らはなければなりません。例へば平生よりも多く食物の進み過ぎたときとか、又平生よりも減じたときとか、斯う云ふ場合には必ず其子の身體に何か故障を生じて居る事と思ひ、深く心を注いで忽にしてはなりません。俗に不規律喰ひと云ふ事がありますが、是等は餘程小兒の周圍の事に注意をして、何うして不規律喰ひをするのであらうか、其の原因に就いて研究し、身體に故障があると思つたら、醫師の診断を受ける事に致さな

ければ不可ません」

問「小兒の周圍の事の注意とは、何う云ふ事柄でありますか」

答「随分小兒は遊びに屈托する事があります。之れは有勝ちの事ですが、爾う云ふ時には、御飯も碌々喰へず、又十分に咀嚼だりして喰へても居りません。故に平生三杯喰へるところを、二杯にして戸外へ飛出します。斯う云ふ事情も不規律喰ひになる誘因になります。斯う云ふ注意なさい、併し斯う云ふ不規律喰ひは、別に病的ではありませんから、親の注意によつて矯正が出来ます」

むら喰ひは悪い

食物の好き嫌いと營養

問「食物の好き嫌ひは、身體の營養上別段差支へはありますか」

答「小兒は或る場合には、好きなものですと、夫ればかり喰べて、外のものを一向に喰べません、又嫌ひの者など箸もつけませんが、總て一方の食物に片寄ると云ふ事は、營養上至極宜しくない事ですから、之れは嚴重に注意を要します。夫れから小兒は戸外で喰べたことを親に咄さぬ事があります。斯くの如く秘密にして置くのを親達が心付かんで居る事は、身體の監視に對し、責任を全くしたとは申されません、斯ういふ事は豫めよく注意を與へてお置きなさい」

親子一室に寝臥せよ

問「睡眠の状態は、如何に監視して宜いでせうか」

答「一體健康な小兒ならば、快よく安眠するものですが、夫れが如何にも寝苦しさうに、折々唸されたり、稀には寢言を云つたり、又甚しきに至ると、寢惚けて床の上に起きあがり、サメくと泣いたりする事があります。是れは身體の孰れの部分にか故障を起して居るためですから、完全な發育を遂げる健康兒とは認められませんが、そして若し斯様な不安な状態が、頻々とつゞくやうであつたら、醫師に相談なさい」

問「夫れでは親子は一室に寝なければ十分の監視は出來ませんか」

答「勿論の事です。親達が小兒と一室に寝て居なければ、何んな風にして眠つて居るのか、知る事が出来ずまい、大切な養育の事を、他人任せや、奉公人任せに仕て置いては、何うしても小兒の健康上に故障の起り易いばかりか、現に故障があつてすらも、親達は注意の仕方が違ひますから、何うしても夫れを發見する事が遅く、誰の眼にも止まる頃になつて、始めて氣の付く位のものです。夫れは獨り睡眠の事のみではなく、吾兒の養育は必ず兩親の手下に置いてするものが天然の法則です。人手に任せて置くのは、是れは變則の育兒法と云はねばなりません。」

大切なる
大便の注
意

問「大便の事は大切でありませうネ」

答「普通の注意は大切なこととす。之れは小兒には能く有勝ちの事ですが、下痢するときなど、動もすると親達に隠して居ます。夫れは下痢した事を話すと、何か自分の欲望を達することが出来ない爲めとか、或は禁じられて居た物を飲食した爲め、夫れが露現して叱られてもしては大變だと、小兒心の考へからして、ヨク／＼烈くなつて、苦痛に堪へられぬと云ふ時にならなければ、親に告げないと云ふ事もあります。之れは至極危険なこととす。下痢すると云つても單に普通の腸加答兒であるか、夫れとも他に原因のある

のか、夫れは知れませんが、孰れにしても下痢した當時に早く手当を加へれば恢復することも亦速であるものを、時経たために重症に陥らして仕舞つた例は幾らもあります。故に斯う云ふことは最も親が注意しなければならぬ事です。小兒の様子が變だから能く／＼聞たゞして見たら、下痢して居たと云ふやうな例は御経験のあるお方はあらうと思ひます。又何か自分の喰べたいものでもあると、現在下痢して居ながら、夫れを隠して居て喰べるとか、又遊び事に屈托して居ると、下痢して居ても夫れを隠して遊びに往くと云ふやうな場合もありますから、萬一小兒

が下痢でもあるやうであつたら、一刻もはやく夫れを發見するのは、監視上の注意として最も必要であります。一方には斯様に下痢の注意がありませんけれども、又一方には便秘することも深く注意を拂はねばなりません。小兒によると三日も四日も其儘で親にも告げずに居ます。小兒は此位の間、便秘して居ても、苦痛を訴へる迄は左程氣にも留めずに居て、黙つて居る小兒が多いのです。夫れに親達も下痢するよりは、便の遠い方がよい位に思つて居るものがありますから、便秘は兎角捨置き勝ちになつて困ります。一體下痢するばかりが悪いのではなく、便秘して

も宜しくありませんから、小児の性質にもよりますが、毎日とか或は隔日位に便通がなかつたら、其児の健康上に障碍を及ぼすものであると云ふ事を御記憶になりたい

次ぎには
小便の事

問「大便の事は能く解りましたから、序に小便の事に就いての注意を承りたいものです」

答「小児の場合によると小水が頻々とあることがあります。今放尿したばかりで、又便所へ通うと云ふやうな事もありますけれど、然し之れは鳥渡した習慣から斯うなりますので、之れは左程心配せずとも直ります。一體小児は大人に比べて、小便の量が多いもの

です。故に量が多ければ、従つて度数も多く、小用の近いのは普通の道理です。然し尿利の餘り遠いのは宜しくありません。例へば朝放尿したばかりで夕方まで小用が出ないと云ふやうな事は、親達が深く注意してやらなければならぬ次第です。夫れから又尿が非常に濃厚になつたり、色の着いたのが放たりする事があります。かう云ふ時には、能く放尿後沈澱を生ずることがあります。この場合には尿が赤く濁ります。之れは大人にも往々あることですが、是等は食物の關係や、夫れから飽食した場合、又は發汗した後などには斯んな状態のあることを念の爲め申上げ

赤く濁る
尿と白く
濁る尿

ます

問「尿の赤く濁ると云ふことは、能く解りました。然し白く濁ることがあります。寒中などには能く爾う云ふ事があります。之れは何ういふ譯でせうか」

答「小兒が戶外などで小用を放ますと、其處丈眞白になつて居ます。又湯に浴いる時など、親達がこの状態を發見する事があります。孰れにせよ白濁を帯びた小便が出ましたら、親達は必ず驚きます。何うして斯んな小便が出るのだらう、元氣は此通りよいし、別に變つたところはないやうだが、殊によると、身體の内部に何か異状が起つて、斯んなに小用が眞白になつ

たのだらう」と狼狽して醫師の許へ連れられる事があります。が之れは別に驚くには及ばないので、斯ういふ尿に對して乳糜尿と云ふ名が付いて居ます。初生兒時代に於ても既に斯んな尿を洩す事があります。すけれど、斯ういふのは多くは冬季の寒いときにあるので、温度の高い夏の頃には見受ける事は殆んどないのです。處が此の白濁を生ずる理由は、尿中の固形成分が寒氣の爲めに冷えて、析出して沈澱するのです。此の沈澱したのが即ち白濁の小便になつて顯はれるので、全く身體に異状のある譯でもなければ、急に斯んな病氣を醸した譯でもありません。故に夏の

顔色や顔付きの注意

氣温の高いときには、尿中の成分が析出することがないから、従つて沈澱も生ぜず、目にも付かぬと云ふ事になります」

問「顔色や顔付きを視て、大體の様子は解りますまいか」

答「其の顔色や顔付きと云ふ事は、最も大切であります。最も顔色と云つても顔の色ばかりではない、今云ふ顔付きの事も共に含まれて居ます。一體に小兒の顔は、大人と違つて瘦せぬものです。大人は少し下痢でもすれば、直きに眼が凹んで顔の瘦せるものですが、小兒は大人と状態が違つて居ます。夫れ故に顔が瘦せぬからと云つて、安心は出来ません。若し顔が平生より

身體の瘦る事と肥る事

瘦せて來るやうであつたら、夫れこそ餘程重病に冒されて居ると思はねばなりません。夫れに血色の事にも氣を付けて、平生の血色と異つて居たら、何處か氣分の悪いところでもありはせぬかと、親の方から心付けてやりませんと、小兒は遊びにかまけて居る場合や、其外左程苦痛のない場合ですと、黙つて居ることがあります。故に若し顔色が悪いやうであつたら、「今日は血色が良くないが、何處か悪くはないか」と注意をなさい」

問「身體の瘦るのと肥る事に就て、お咄しがありませうか」

答「小兒の癖として、身體が瘦せて來ても、苦痛を自覺しない以上は、決して夫れを訴へるものでもなければ、又元氣の消耗するものでもありません。若し身體が瘦せるやうであつたら、之れは必ず身體に障礙のある結果です。之れを親達が深く注意しませんが、顔付きも左程瘦せても居らず、元氣も眼に立つ程衰へても居ませんから、遂に瘦せて行くのを發見する事が出來ず、又從つて病根を早く治療することが出來ないで、遂に手後れにして仕舞うやうな事になります。傍に毎日居る小兒ですと、眼が自然と夫れに慣れて仕舞うから、ジリ／＼瘦せて行くのは兎角發見する

脊骨の曲つたりする場合

事が後れます。之れは餘程注意を拂はぬと不可ません。又瘦せるのと反對に肥り過ぎても宜しくありません。肥るから宜いと投遣つて置きますと、夫れが案外にも本肥りではなく、一種病的の肥り方であつて、非常に發育上の障害になることがあります。左れば瘦せ過ぎても悪し、肥り過ぎても悪いから、小兒の養育は實に難かしいものです。

問「脊骨の曲つたりして居る小兒を能く見受けますが、那れは何ういふ譯から、斯んな結果を生ずるのでせう」

答「素人の見て脊骨の曲つたと云ふやうなのは、則ち脊

髓の屈曲で、後方へ凸起したり、又横方へ彎曲したりするのです。此の凸起とか彎曲とか云ふのは一種の病的でなければ、全く親の抱き方や脊負ひ方の悪い爲めの結果です。然し萬一之れが結核性の爲めに凸起や彎曲の状態に陥つたのなら、實に容易ならぬ病氣です。初期の内に早く手当を施さぬと悔いて返らぬ事になります。椎骨の結核と云ふのは、即ち骨の腐る病氣で之れを「カリエス」と申します。此の病氣に冒されては、極く輕症であつても一年や二年では治らぬ事があるし、又治つたと思つても完全なる治療が届いたか否やは、成長した後でなくば受合ひの出來

寢衣を着
せかへる
時入浴の
とき

ぬと云ふ程恐るべき病氣です。斯ういふ病的でなくして、親の抱き方や脊負ひ方などの悪い爲めに脊髓の彎曲や凸起などのある場合は、親は不注意であると云ふ責任は免れる事は出來ません」

問「斯様に色々監視すべき條項がありましたも、之れを何ういふ方面から注意して良いか、と云ふ事を心得て置かなければ、之れを活用して監視する事が出來ません。仍つて其の注意の仕方をお尋ねします」

答「扱斯様な注意の仕方に就いて、是迄の實驗によりますと、夫れは朝夕寢衣を着換へさせる時で御座います。誰人でも御存じの通り、寢衣を着換へさせると

きは全く裸體にしなければなりません。處が何うも此の場合に十分身體の監視を致さぬお方が多いやうであります。夫れは母親が家事にかまけて、小兒が寝たら何々の仕事を仕なければならぬとか、那の用事を片付けて仕舞はなければならぬとか、只管用事の方へのみ心を奪はれて仕舞ひ、急いで寢衣を着せて寢に就けて仕舞うと云ふやうな有様です。又朝起きる時も其通り、朝は用事が色々ありますから、矢張り家事の都合で身體の監視なども、怠り勝ちになります。ますから、斯ういふ缺點は是非取除かなければなりません。爾うして機敏に身體の監視をなさるやうに

致したいものです。其他朝夕寢衣を着換へさせるときばかりでなく、入浴させるときなどは、尤も注意を要します。能く私等の耳にする例ですが、風呂に入れますとき氣が付きましたが、小兒が大層瘦せました。何處か悪い處でもありませんかと云つて醫師の許へ連れて来る事などあります。是等は詰り入浴の際に發見した譯であります。尙之れよりも一層綿密なる注意をするには、醫師に托して時々身體検査を行つて貰ふ必要があります。然し幼兒の事に就ては、誰人よりも一番早く母親が心づくもので、例へば小兒の泣き様でも、又元氣でも、總て平生の舉動を知つて

居ますから、直ぐ不完全の點を知る事が出來ます。健康なる小兒でも身體の監視は極めて必要なことですから、虚弱兒や不健康は尙更ら注意を怠る事は出來ません。之れこそ大事の大事の育兒法であります。

□異様状態の注意

事 三度の食

問「素人が一見して小兒の身體異様を判断するには、平生第一に何を注意しますか」

答「三度の食事です。小兒によると、食量が俄に減つたり、或は無暗に餘計喰べたりして、随分不規律喰があり、ます。左もなければ、次第に食量が減つたり、平生喰べ

食物と密接なる關係ある便の様

なれぬ、灰や木炭の如き異物を嗜んだり、哺乳兒時代の小兒が乳を吐き、又乳を嫌つたり、稍成長して幼稚兒時代となり、喝を訴へて水とか湯茶をガブ／＼飲んだり、總て飲食物が平生と異つて、不規律になつた場合には、油斷が出來ませぬ」

問「食物と密接なる關係のある、大小便は」

答「永く便秘するのも悪ければ、度々廁へ通つても悪し、下痢を醸しても尙更悪い、其他大小便の性質なり、度數なり、分量なり、又排便時の様子——即ち疼痛があつたり、顔を皺めて苦悶を訴へたり、非常に時間が永くかゝつたりしたら、哺乳兒でも三四歳以上の小兒

咳嗽や痰

息切れの
する小兒

安眠の出
來ぬ場合

でも平生見逃してはならぬことです

問「其次の心得は」

答「咳嗽が出たり、痰が出たり、音聲に變調を來し、終に聲の嘎れる事」

問「少し運動すると息切れのする兒がありますが」

答「呼吸の促進及び動悸のするのは宜しくないし、靜にして居ればよいが、少し動くと息切れのするものも、必ず異状のある證據です」

問「夜間睡眠中に注意する事がありますか」

答「夫れはありますとも、安眠が出来ずして、何分寢苦しいやうで、眠つたと思ふと眼を覺すもの、夢に驚はれ

痛み場所
のある時

出血

て、屢々寢惚けるもの、盜汗をかくもの、其外口を開いて眠つたり、盛んに汗をかくのは、鼻とか咽喉に何か變化があるので、普通健康兒には、口を開いて寢たり、高く汗をかいたりする筈はありません

問「頭痛、腹痛、齒痛、其他疼痛のある時は」

答「夫れは素人にも直きに解らうが、哺乳兒は素よりの事、まだ三四歳の小兒だと、頭痛と云つても腹痛と云つても、果して大人の考へ通り、頭とか腹とかが痛むのかと云ふと、案外違つて居る事があります。其邊をよく見わけなければなるまい」

問「出血及び口内の出血等は」

鼻や耳や
眼の事

答「出血の量は少くとも大人の如くに打捨てゝは置け

ません」

問「まだ夫れに似たやうな心得がありますか」

答「鼻道の閉塞、即ち鼻で呼吸の出来ぬ事、重聽、即ち耳の

遠い事、赤眼、即ち眼の赤くなる事、視力障碍、即ち眼の

能く見えぬ事、斜視、即ちやぶにらみの事、羞明、即ちま

ぶしがる事、夫れと平常涙の出る時などです」

問「相貌や顔色の悪い時の心得は何うでせうか」

答「相貌と顔色の容子は、日々注意を怠つてはなりません

ん、少し身體に異状を呈するときは、何よりも先きに

相貌が變つて顔色が悪くなります。總て小兒は身體

相貌と顔
色

に故障さへなければ、誠に無邪氣な、喜ばしい元氣の
良い相貌をして居るものです。處が病氣にでもなる
と喜ばしい顔も沈鬱なる様子に變り、惘乎として、折
折顔を皺めなどして、元氣は少しもありません。腹工
合でも悪いと、親は大層心配をして、醫師へ連れて往
きます。處が小兒の相貌を一見すると、元氣がよく、嬉
嬉たる様子が、瞭に顯はれて居ますから、之れは親の
心配する程重い病氣でない事が、醫師には直ぐ判断
が付きます。然るに夫れと反對に、病氣の小兒が、今迄
頻りに泣き叫んで居たのに、夫れがやんで平靜にな
ると、親達は最早之れで、病苦が稍薄らいたと信じま

おでき

すけれど、夫れを醫者が見ますと、相貌は全く沈鬱に傾き、益々病勢は昂進して居ると云ふやうな場合は、屢々實見します。是れは小兒の相貌の上に平常注意を怠るべからざるの一例です。其他營養不良であつたり、機能に障礙があつたり發育の悪い不健康な小兒は、顔色が蒼白色です。赤味を帯びた顔色に反して蒼白の顔色は決して油斷がなりません。夫れから水腫は多く顔面に顯はるゝもの、黄疸も眼球の黄みから顔面に黄色を呈するもの、又顔及び口唇の色が紫色に變ずるのも宜しくないのです。

問「發疹の出来る小兒は如何ですか」

發熱

答「皮膚の發疹には種々の病氣があつて、一樣には謂はれませんが、頭髮の間や面部に出来る、何分小兒も不愆です。然し腫物が臀部や肛門の周圍などに發きて、夫れを親達がか心付かずに居たり、瘡傷が脊や胸などに出来て居るのを發見せずに置く事は、往々見受けるが、衣服を脱ぎ換へるときや、入浴の際は一層身體の検査をしないと、瘡傷だの腫物が衣服に隠れて、心付かずに過し、遂に病原發見の手後れとなることがあります」

問「小兒は動もすると、發熱し易いやうですネ」

答「發熱があつたら、直ぐ醫師に診察をお受けなさい、熱

氣分の變化

の 出る病原を捨置いたら、多くは一大事になります。殊に急に大熱を發し、ブル／＼戰慄たりすると、往々痙攣けることがあります

問「氣分の色々に變化する小兒もありませんネ」

答「今迄樂しげに遊んで居た小兒が、俄に沈鬱になつたり、又之れに反して、著しく精神發揚して、頻りに泣き叫び、又安眠せず、屢々目醒める等、是等は氣分の變化ですが、矢張り注意を要します」

不活潑なる舉動

問「舉動の不活潑なるは何うでせうか」

答「哺乳兒時代の小兒はもとより、五六歳以上の小兒でも、孰れも元氣快活で、一寸も活動を止めないもので

瘦肥

す。平生程元氣が有るか無いかは、親々の判斷を要します

問「然らば身體の羸瘦或は過度の肥滿等は如何ですか」

答「瘦せて居ては素より宜しくないが、左りとして肥え過ぎて居ても宜しくない、斯ういふお兒さんは、是非醫師の診斷が必要であります」

歩行起立發語

問「小兒によつて歩行や起立又は發語の遅いのがありますか」

答「それは病氣の爲めに、斯くの如き状態の事もありますし、歩行起立せしものが、俄に起つて歩くことが出来なくなり、發語の出來た小兒が、口の利けなくなつ

いろいろの注意を見逃すな

たりする、之れも往々病氣の爲めになります」

問「其外何んな注意を要しませうか」

答「頭の形、胸の形の異常、及び畸形兒や、飢餓のとき、腦の痛むとき、胸部の痛み即ち肋膜炎等のとき、俄に痛みを起す腹痛のとき、斯ういふ場合の泣聲は、平生注意して居れば、自然に夫れを聞分けられます」

□喰べさせて良い菓子と悪い菓子

ソロ／＼菓子ノ求

乳兒も母親の乳を離れて、段々と食物に移ります時は、餘程加減の難かしいものです。食物を喰べられるやうになつた乳兒には、ソロ／＼菓子を與へるやうになります

けれども、此時分には、まだく無暗には與れません。

極めて軽い口へ入れたら直ぐ溶けると云ふやうなものでもない、と不可まないので、ボールとか園の露の類ならば、與へても差支へありません。又小麦の粉で造つた菓子も宜しいのですが、孰れにしても、軽いもので口へ入れたら直ぐ溶けるやうなものを選ぶのが肝腎です。夫れならば一向害になりません。

消化の工合と便の體、工合、體、量、血色、元氣

食物に移つてから、消化の工合や便通の工合もよく、體量も増え、舉動も元氣よく、血色も良ければ、夫れで差支へありません。

二歳頃になれば、三度の食事の外に何うしても間食を

喰べさせて良い菓子と悪い菓子

西洋菓子
と日本菓
子

させなければなりません。其の菓子類には日本菓子の中にも、西洋菓子の中にも、適當なものがありませんが、小兒の性質によつて、中には鹹いものを好くのものもあります。何んでも甘いものばかりを好くとは申せません。例へば鹽煎餅などを喜んで舐つて居る兒などを御覽になつてもお解りです。西洋菓子の中では「ウエハアース」などが適當なる菓子です。

日本菓子の中には、ボールとか園の露をはじめとして、水飴、カステラ、カル、スセンペイ、桃山、風船、アラレ、月の友などは少しづつ與へても差支へありません。總て間食のときに與へる菓子類は、蛋白質で製造した軽いものが宜いのです。

分量の事

又特に注意して置きたいのは、同じカステラと名のつく菓子でも非常に日ましになつたものや、製造の悪いものを與へてはなりません。カステラと名の付くものなら何んなものを與へても可いと云ふやうな事であつては困ります。又飴と云つても、硬く製してあつてなかく、齒の立たぬやうなものもありますが、夫れは不適當なものであります。總て食物の選擇は小兒のために最も大切なもので、僅の油斷から遂に失策を醸すやうな譯になります。夫れから分量などの事も、母親が其の時々の見計らひを

喰へさせて良い菓子と悪い菓子

しなければなりません。乳兒により其の分量の斟酌が要ります。

二三歳の小兒には、午前中に一度、午後に一度、間食の時間を定めて置かなければなりません。

先づ午前十時頃になつたら、牛乳一合と消化のよい菓子類を適宜に與へ、午後三時頃になつたら、又夫れと同様な分量に、牛乳や菓子類を與へます。

然し間食の菓子類のみ欲しがつて、相當の食事にはまだ慣れない、詰り間食の方が食事より先きに慣れた小兒もあれば、夫れから肝腎の御飯や、魚類などは嫌つて、切干の煮たのや、香の物などを欲しがる小兒も稀にはあります。

す。斯様な小兒でも牛乳の二三合も飲み、又不消化だと親は心配して居る食物でも、良く消化を遂げれば、左程營養に障碍はないものですから、總て小兒の身體がよく肥つてゆき、血色もよく、健康で、消化した便であれば、食物は不完全のやうに思はれても、心配するには及びません。爾ういふ小兒も稀には見受けれます。

□ 虚弱兒の轉地問題

一二歳の頃

小兒が一二歳になると、ソロ／＼皮膚を固めて強壯にする方法を講じなければなりません。皮膚を強壯にする

一二歳の頃

事は、恰も甲冑を以つて身を堅めるやうなものであります。皮膚は十分抵抗力を強くして置く事が必要で、小兒のときから矢張り夫れに對する方法を取る事が大切です。夫れには何うしたら宜しいでありませうか、先づ夏ならば海邊へでもお子さまを連れて御旅行なさい、一二歳の位の兒女であつても、海水に浸す位の事は一向差支へありません。海水に入れば自然と皮膚が強壯になり、之れが小兒の爲めには、身體を強壯ならしむる一つの方法となります。

四五歳の頃

四五歳の頃

夫れから四五歳となりますれば、最早冷水摩擦位は一

鹽風は藥

鹽風は藥

向差支へない事です。冷水摩擦を實行するに當つては、裸體にしてやるのですから、母親は餘程敏捷にやらなければなりません。

然し小兒の身に取つて見ると、出来ることならば、夏は涼しき海岸に暑を避け、冬は氣候の暖き場所へ避寒する事が大切であります。

暑中は山へ小兒を送つたが宜いか、或は海岸へ送つたが宜いか、此點に就ては世の親々が迷ふ事と見え、屢々質問を受けます。

之れは御尤もなる問題で、親御さんが折角お子さんを

避暑に連れて行くのに、山がよいか、海が宜いかを御承知になつて居なかつたら、全く夫れは手ぬかりであります。仍つて茲に一言簡短に申しますれば、
 「神經の過敏なるものは山へ連れて行く事」
 又夫れと反對に、
 「痴鈍なる小兒は海へ連れて行く事」
 と斯ういふ事柄は能く心得てお置きなさい、然しながら普通の小兒で、神經も過敏でなく、又痴鈍でもなければ、
 「海へ連れて行く方が宜しいのです」
 何故ならば、海邊の空氣には、多くの鹽類を含んで居るからであります。

鹽類は刺戟性のものであるから、皮膚は夫れが爲め抵抗が強くなり、以つて虚弱な小兒も強壯になる譯であります。

夫れが證據には海邊へ避暑に行くか、或は海岸に居りますと、直きに皮膚の色が黒くなります。之れは唯徒に黒くなる譯では御座いませぬ、即ち鹽分の刺戟によつて爾うなのです、之れが尤もよき實例ではありませんか。若し是れが果して日光ばかりで、夫れが爲め色が黒くなるならば、何處に居ても皮膚の色は黒くなる譯ではありませんか、處が海邊へ往くと、忽ち鹽風に吹かれて黒くなります。之れは即ち刺戟によつて黒くなるので、日光に

よつて黒くなる譯ではありません。
 神經過敏なる小兒は、山の静かなる處へ連れて往くのが最も強健法に適して居るのです。けれども若し夫れを反對に海濱に連れて往つたら何うでありませうか。
 「爾うしたら過敏なる神経は益々過敏になるばかりです。尙其結果は遂に寢惚けたりして俄に床から起上つて泣いたり、恐怖したり、噪いだりするやうな事を致して安眠する事が出来ません。而して單に寢惚けるばかりでなく發熱したりする事があります」
 故に斯くの如く神經過敏な小兒を海へ連れて往くと云ふのは見合せる方が可いのです。

南向きの
 室は誰の
 部屋

□小兒の健康を圖る遊戯室の位置

世間多くの家庭に於ては客間とか或は應接間とか、或は主人公の書齋だとか云ふと、南向きの明るい日當りの良き部屋を選びます。爾うして小兒等の部屋となると、何處でも構はぬと云ふやうな有様で「何うせ小兒は荒れるのだものを、何んな部屋でも構はない」と云ふやうな冷淡な親も、恐くはないとも限りますまい。

之れは小兒の健康如何を思はぬのみか、小兒の身體をして益々強健ならしめんとする親の至情がないと云つても敢へて差支へあるまいと思ひます。故に小兒の遊ぶ

部屋の位置と戶外

部屋は、家庭に於ても一番日當りのよき、南向きの明るい場所を選ばなければなりません。

應接間や客室はホンの僅の時間、主客共に居るのですが、小兒の部屋に至つては幼稚園に通ふなり、又は學齡に達するなり、或は小學校時代を此の部屋に於て暮さないとも限りません、實に永い時日を要するのです。して見れば少しく小兒の健康如何を思つて遣つたら、先づ客間よりも、應接間よりも、書齋よりも、第一に小兒の部屋を一番日當りのよい、南向きを選ばなければなるまいと思ひます。

然し、部屋は斯くの如く、日光の克く當る南向きを選んだ以上は、此部屋に居れば戶外へ連れ出し、日光に當てずとも、差支へあるまいかと云ふに、決して爾うではありません、既に三四歳の頃になつた小兒なら、成可く戶外へ連れ出し、日光に當て運動させなければ宜しくありません。爾うして寒中でも、或る程度迄は戶外へ出して、日光に當て、寒風に少し位は吹かせても、決してお止め申しません、斯ういふ鹽梅にして、自然と身體を鍛鍊しなければ、健康を圖る譯には參らないのです。

□夜泣きは體力の強弱に關係なし
病氣ではない

夜泣きは體力の強弱に關係なし

病氣ではない

醫學上から謂ふと「夜泣き」と名の付く病氣はないので、畢竟之れは小兒が夜と晝とを取違へたので夜眠るべきものを晝の中に眠り、夫れが爲めに夜は眼を覺まして居て、頻りに泣きたてる、爾うして之れが幾夜となく續いて夜になると泣く、之れは健康な小兒だから、夜泣きをせぬとか或は虚弱な小兒だから夜泣きをするとか、小兒の健不健に關係のあるものでなく、全く夜と晝とを取違へた、小兒の癖であります。

此の癖は何うして付くのであらうか、其の動機はいろいろあらうが、先づ大抵は晝間眠らせ過ぎて、夫れが爲め夜中眠られず、眼を覺まして居ると、夫れが夜泣きの始め

母親の疲勞

母親の疲勞

で、毎夜同時刻に泣き出すと云ふ事もあれば、或は一夜不圖した事から眼をさますと、夫れが癖になつて、其の時刻が來ると泣き出し、容易に泣きやまぬので困ることもある。又左もなくば虚弱な小兒が宵の中に乳を飲み過ぎて胃腸の落付きが悪く、寢苦しいので熟睡する事が出來ず、夫れが爲め遂に晝間眠るやうな始末になります。すると夜は勢ひ眼をさまし遂に夜泣きをするやうな場合もある。夫れ故夜泣きをする癖がついたら、よく其の原因をたづねて見ると何か思ひ當ることがあるに相違ない。

斯様に夜泣きをする小兒があると、母親は分けても睡

夜泣きは體力の強弱に關係なし

眠の不足を感じ、身體の疲勞を來し、随分難儀するもので果は家族一同眼を覺まして眠られぬと云ふやうな事にもなります。

夜泣きを治さうとして親達はいろ／＼に苦心されるが中には夜泣きの呪ひをするとか、或は祈禱者を頼んで夜泣きを封じるなど、種々の方法を講ずる親達もあるが之れは一種の迷信に過ぎぬ仕方、祈禱や呪で治るものではないのです。

然し親達の斯様に苦心する割合に「夜泣き」は爾う案じられるものでない事を記憶されたい。

晝間眠らせぬ工夫

晝間眠らせぬ工夫

之れを矯正するには、夜中眼を覺まして眠らぬ癖をなほしてやればよいのです。さうするには晝間は成可く眠らせないやうに工夫する事が肝要です。

我國ではまだ小兒を脊負ふ習慣があつて、多くの家庭に之れを見受けるが、夜泣きをする小兒などは、晝間脊負つて居ると云ふことが尤も悪いので、脊負つて居ると勢ひ小兒は脊で眠り勝ちになる。夫れ故之れは是非改めるやうにされたい。又午前の中は眠らせても午後になつてからは眠らせぬ工夫が必要です。殊に夕景になつてから、眠りに就くやうな習慣があつたら、之れは夜中の安眠に害ある事故何とかして眠らせぬ方法を講じなければな

らぬ。

其の方法は、眠さうに見えたら、玩具を出して慰めるとか、或は抱いて方々見せてやるとか、兎に角眠をさませせる工夫をする。さうして種々と氣をまぎらせて睡眠の間を眠らせずに通過すると、夜中は十分に熟睡し夜泣きせずに済みます。

夫れから夜分は成べく乳を飲ませぬやうにし、胃腸の落付きをよくする事も肝要であるし、又寝る前に入浴させるのも安眠の一法である。孰れにしても小兒の日常に より注意し、旨く工夫すれば此の癖を改良する事は出來得るので、私も自分の子を育てる時分に、矢張り夜泣きを

をされて困つた事もあつたが、實驗上是等の手段を用ゐて首尾よく矯正する事が出來ました。

□幼稚園に入れる可否

—醫師の立場から—

母親は一番能く子供を知つて居ます、そして此の子は何處を何うすれば宜いと云ふ呼吸を十分にのみ込んで居ますのですから、母親が教育の任に當ればよいやうに思はれますけれど、實際の場合になると、なか／＼思ふ通りに參らないのが多いのです。

家庭では何んなに氣を付けても、幼稚園程規律的に育

てる事は出来ません。就中子供に最も多い胃腸病を防ぐ事は、嚴格なる家庭でも難かしく、子供の愛に溺れると子供にせがまるゝ蒼蠅さに、つひ菓子其他の間食物をたびたび與へて仕舞うのであります。

夫れから又家庭では大人と一緒に暮して居るので、爲めにならぬ事を澤山覺えます。是等の弊害を防ぐには幼稚園は誠に結構な事だと思ひますが、世間では幼稚園へ通はせると、いろ／＼な知識をつぎ込まれるので、何うもこせついて困る子供の心神を損ねて困ると云ふ人もあります。成程昔しの幼稚園には多少其様な傾きもあつた様ですが、今の幼稚園は餘程進歩して居るのであります。

無理をせず
に兒童
を啓發す

物を教へるところではなく、遊ばせる處です。遊ばせる方法も、總て子供の頭腦に相當した仕懸けて、少しも無理をせず、子供を啓發するやうにして居ます。

又最もよく子を知るのは、母親に相違ないが、今の嫁母たちのなかには、母の經驗をもつた人もあり、又種々各方面に細い研究を重ねた人もあるので、すから、子供を見誤つて、思はぬ方へ導いて仕舞うやうな氣遣ひは、まづあるまいと思ひます。小學校に入學した場合にも、家庭教育の子供は、學校と云ふものに不馴れな處へ、知識を注入されるので、子供も困るし、教師もなか／＼骨が折れるが、幼稚園出の子供は、順當に進んで行けます。

級の進むにつれて、家庭出の子供の方が成績がよいと云ふ説もありますが、果して爾うであるか否か、私の考へでは、そんな筈はなく、その子の天稟如何によつて違つて行くであらうと思ひます。

□兒童に最も獎勵すべき遊戯

幼稚園時代の遊戯

小兒も幼稚園へ行くやうになれば、幼稚園には夫れ夫れ園兒に適當なる遊戯法が設けてありますし、殊に其の年齢に應じて、此の時代の小兒には、斯ういふ遊戯、那いふ遊戯と、尤も適當なる方法を以つて、制定されて居ますから、幼稚園に送つて夫々教育をうけしむる事は、兒童の爲

めに最も宜しき事と思ひます。

世間では體操と云ふ事に、大分重きを措いて居るものもあり、また幼稚園時代の小兒に向つて體操を獎勵する譯には、参りません。夫れ故矢張り歐羅巴あたりの公園に設けてある小兒の遊戯場の如く、砂盛りさしたり、鋤で土を掘つたり、鍬を使つたり、車で砂を積んで運んだりするやうな、興味の深い遊戯をさせるのが必要であります。體操と雖も決して興味が無い譯ではありませんが、夫れよりも尙一層小兒を楽しく愉快に遊ばせるやうな方法を執る方が、却つて小兒の運動法に適當な事であると信じます。

凧を揚げ
羽根を突

日本に於て兒童等の最も楽しく喜んで遊戯するのは、
凧を揚げるとか羽根を突くとか云ふのでありますが、是
れは頗る奨励すべき遊戯であります。凧を飛ばして遊ぶ
ときは、兒童に取つては、實に無上の快樂であります。風
のまに／＼凧の高く昇るとき、兒童の心中に立入つて見
たなら、希望ふ通りに空中遙に高く凧は飛揚するし、風を
受けて或は高く、時に或は低く、然して斯くの如く飛揚す
るまでには、十分身體の運動にもなりません。凧を揚
げる事は遊戯として、運動のためにも最も宜しき善良な
る身體の強健法であります。
而して羽根も亦、兒童に於ける凧の如く、女子に取つて

古來日本
の遊戯

は最も奨励すべき遊戯の一つであります。追羽根の如き
は、能く世間の女子が弄ぶ遊戯であります。之れも羽根
を突損ねまいと云ふ一心で、精神を夫れに注入しますか
ら、別段餘事を思はずして、其間に適宜の運動法を取るや
うになります。

夫れです。から古來日本の遊戯として、小兒等の喜ぶ凧
とか、或は追羽根の如きは、男兒并に女兒の爲めに矢張り
之れを奨励するやうにしたいものです。之れは歐羅巴に
於ける兒女の遊戯としても、此の位興味のある、且つ運動
にも適切なる方法はなからうと思ひます。故に私は世間
の親御様達に向つて、お子さまをして、凧を揚げ、羽根を突

かしむる事は、平常お勧めするのであります。

□學齡期兒童に適當なる運動法

小兒も學齡期に達しますと、幼稚園時代よりも一層運動法が進んで參るので、端艇を漕ぐのも宜からうし、又べ—スポーツルを行つるのも宜いでせう。其他柔道でも、擊劍でも、是等は孰れも、此時代の運動法として、最も適當なるものであります。

激烈なる運動はやめよ

最も小學校時代と雖も、其年齡に應じた運動を採らなければならぬので、餘り激烈なる運動も却つて宜しくありません。日本古來の柔道及び擊劍は、最も獎勵すべき運

戶外運動の必要

動法だと思ひます。殊に柔道の如きに至つては、獨り身體を鍛鍊するに止まらずして、精神を修養する上にも大なる裨益を與へます。小學校時代から柔道の稽古をするのは、私は大に賛成で、小兒の身體は是れによつて益々強壯になります。

總て此時代の小兒等には戶外運動が必要であります。最も柔道、擊劍の如きは道場は室内に設けてあるが、然し之れとても戸や障子を開放つて稽古しますから、室内の空氣と、室外の空氣とは十分克く交換致します。運動を怠つて身體を強壯ならしめんとするのは、尙木によつて魚を求むるの類で、到底望みを達し得ることは出

來ません。

冷水摩擦
と散歩

冷水浴の如きは、是又身體を鍛錬せしむる方法の一であります。冷水浴と申して、強ち水を浴びずとも、宜しいので、手拭或はタオルを水につけて、夫れを絞つて、身體を普く拭きます。是即ち冷水摩擦と稱するので、身體健康上利益尠からざる事です。

寒中温度が下つて、氣候の最も寒い日なども、矢張り此の酷寒を冒して散歩する事などは、身體を鍛錬し、併せて是れが、強壯の方法に適する次第であります。

學齡兒童は、最早此位の鍛錬は必要です。けれども、身體極めて虚弱なる兒童や、竝に病氣にても罹つて居る際に

は、斯くの如き運動は餘り宜しくありません。故、見合せる方が宜いのです。

□感冒後に於ける學業不成績の兒童

口を開いて眠る小兒は注意せよ

感冒から鼻加答兒や、氣管支加答兒などを起して、急に發熱し、夫れから熱は幸に去つても、鼻咽腔の腫れは取れずして、慢性に陥ると、永く耳が聞えない、夫れに腫れの減退ぬ爲に、呼吸も十分に出来ないで、困難になります。斯ういふ小兒は、寢るにも口を開いて眠つて居ますし、呼吸が鼻から出来ないから、眠ると鼾をかきます。

故に小兒の寢顔を見て、若し口を開いて寢て居るやう

小兒の體質を虚弱にす

であつたら、何か鼻道に故障があります。故障がなければ小兒は必ず口を閉ぢて眠るべきものです。

小兒が段々成長するに従ひ、鼻咽腔が腫れ、耳へ通ずる歐氏管が塞つて居ますと、食物には別に關係はありません。んけれど、呼吸が平素十分に出来ませんから、肺臓の擴張は満足でなし、従て胸廓の發育が不完全で、胸が扁平になり甚しきに至ると、胸の中央がくぼんで參ります。發育盛りの小兒で、胸の漏斗狀に凹んだのは、多くは斯様な原因から來ます。若しも斯ういふ状態になりましたら、小兒の體質は虚弱になり、一生の不幸を醸す基になります。耳へ通ずる管が塞りますと、左程耳は重聽なくとも、鳥

智慧付がおそい

度談話の聞取りが悪くなります。

夫れが爲め小兒の智慧付きも遅くなりますし、若し又之れが學齡兒童で、小學校に通つて居たら、教師の説明が満足によく聞取れません。其上、口を開いて居て、容貌も憫乎して、放心状態に陥り、従つて學業の成績も悪いのです。

斯ういふ病氣のある兒童は、逆も健康兒と相並んで學術の進歩を見ることは覺束ないから、斯んな徵候が見えたら、早い内に治療し、病源を除くやうになさい。

故に小兒が感冒をひいても、只感冒ぐらゐると思つて油斷すると、飛んだ處へ影響を迨ぼし、夫れが兒童の學業不成績の原因となる事があります。小兒が感冒をひきます

鼻咽腔の位置

身體に重大なる變化を起す

と、夫れから引續いて鼻咽腔を冒され、其處が腫れ出して來ることがあるのです。

鼻咽腔の場所は鼻の孔から奥の方へすすみ、恰度鼻の孔の突當りと咽頭の突當りの間にありますから、鳥渡口を開かした位では見えません。夫れ故、肉眼を以つて見やうとするには、喉頭鏡と云ふ機械を用ゐ、夫れで照らして見なければ分りません。此場所が腫上つて來ますと、矢張り鼻が詰ります。故に哺乳兒は乳汁が十分満足に吸へませんで、爲めに營養は衰へ、夫れが永い間引續いて慢性になると、身體に重大なる變化を起す故、此邊の用心をしなければなりません。

元來鼻咽腔粘膜炎の組織は扁桃腺と同じやうな組織で動もすると腫れ易く、又腫れたすと其組織が腺狀植生と云つて、組織がウヂヤクとして腫れて來ます。此鼻咽腔には耳へ通ずる管があります。之れを歐氏管と申し、管の口が鼻咽腔の方へ開いて居ます。鼻咽腔が腫れ塞がる事があります。爾うして此通路が閉ぢて、空氣が通はないと、遂に耳が重聽なる事があります。感冒をひいて耳の聾ぬと云ふのも、詰り鼻咽腔から耳へ通ずる管の口が腫れて塞がる爲めです。

□入浴後の適當なる處置

入浴後の適當なる處置

湯冷め

大人でも小兒でも同じ事であるが、入浴したらば身體が温つて、非常に心持のよいものであるが、夫れを過ぎると今度は反對に身體が寒くなつて参ります。之れは俗に云ふ湯冷めでありますが、其時親の不注_い意からして小兒に風邪をひかせるのです。浴後は皮膚が温つて、體温は著しく放散します。故に平常着て居る衣服よりも尙一枚位餘計に着物を着せるのが浴後に於ける緊要な注意であります。最も之れは氣候の寒い時の咄して御座います。其の思召に願ひます。

處で自宅に風呂の備へてあります家庭では、夜分寢床に就く時に入浴させ、風呂から出たら直ぐ寢衣を着せて

入浴後は一枚着物を多く着せよ

褥に眠らせる事が最もよい處置で、風邪の流行する時などは爾うなさるやうにお勧めします。但し市中の錢湯などへ行くのなら、茲に一考せねばならぬ事があります。夫れは浴後家に歸るまでの間に、或は寒氣に襲はれて風邪にかゝらぬとも申されませぬ。故に市中の錢湯へ小兒を連れて行くのなら、矢張り日中二時前後の空氣の温まつて居る時間を選び、入浴後は平生よりも一枚多く衣服を着せて置いたら、風邪に襲はれる事が尠なからうと思ひます。斯ういふ注意は至つて些細の事のやうですが、扱なかく爾うでありませぬ。虚弱兒や不健康兒には尙更此の注意が大切であります。

宵越しの食物

□花時の衛生注意

氣候の變るに従つて衛生上の注意も夫れく變つて参ります。花の咲く頃からは胃腸の病氣に罹るものが多いので、食物の事は一般に注意しなければなりません。而して食物も宵越しのものは腐敗に傾き易いから、食物の攝生と共に深く注意すべき事です。殊に小兒の最も嗜きな餅菓子などが家庭に入る機會の多い時節であるから、親達が餘程嚴重に食物の監督をしないと、遂には喰過ぎて劇烈なる腹痛を起し、夜中醫者を迎へるやうな騒ぎが起ります。

急性の腸胃加答兒を起す

小兒が喰過ぎて急性の腸胃加答兒を起した一例を茲に申しませう。或お宅で櫻餅を買つて小兒に喰べさせました處、際限なく欲望むので親もつひ小兒の愛に引かされ「もう是れ切りですよ」と云つては喰べさせたから、何か度を過ぎて喰過ぎて仕舞ひ、其お兒さんは翌朝俄に腹痛を起しました。斯ういふ事實は小兒のある家庭には随分有勝だらうと思ひます。

又世間には小兒の食事を下婢に任せて置くやうな例を見受けますが、之れでは決して小兒の爲になりません。小兒は親に對してすら随分我儘を通し、或は喰過ぎたり或は過不及喰をして消化を害する事は往々有りますか

ら、小兒の食事は決して女中任せにしてはなりません。

□梅雨期は如何に注意すべきか

梅の實の熟する梅雨の季節になりますと、此の濕潤なる氣候は衛生上に大なる關係があるので、先づ空氣を洗つて新鮮にするとか、又は病毒の或者を押流すと云ふ事は利益となりましても、十中の八九は直接人間に不利益になる事のみ多く、就中虚弱兒などの爲めには一層十分なる注意を拂はなければなりません。

梅雨期に入ると雨量夥しく、有ゆるものが濕氣を來し又微を生じ、食物は早く腐敗に傾き、食用に堪へざるやう

食物の注意と感冒下痢

平生の食事をかへるな

になります。人體に於ても是れと同じく、動もすれば感冒をひき、胃腸を害して下痢を醸すなどの事が屢々あります。

殊に虚弱なる小兒の身體には、其の影響が最も甚だしいが、扱此際第一に小兒衛生上の注意は何んであるかと云ふと、即ち食物であります。

夫れも俄に平生の食事を改め、飯を粥にせよと云ふやうな次第ではなく、普通の食物でも、腐敗に傾かざるものとか、過食せざる事とか、食事の時間を規則正しくするとか云ふやうな事を申すのです。

世間の人は夏の熱い盛りには、食物が腐敗すると云ふ

梅雨期は如何に注意すべきか

事を知つて居ますが、夫れよりも、梅雨の頃には、一層腐敗を醸すと云ふ事を知つて居るお方がまだ尠ないやうに思はれます。

食物の腐敗
牛乳コンデンスの變敗

温い温度と、濕氣の二つは、微菌の發生に尤も妙で、爲めに食物も直きに腐ります。御飯などが汗を搔いて、ブんと異臭を放つのは、全く微菌の作用で、腐敗を醸したのであります。夫れ故、梅雨の頃は、食物には特別氣を付けて腐敗し、かつたものを喰へてはならぬばかりでなく、又腐敗を生ぜしめぬやうな方法を講じなければなりません。夫れですから、若し牛乳で保育するとか、或はコンデンスミルクを用ゐるやうな場合には、殊に腐敗の點に留意

しないと、飛んでもない失策を醸すことになりま

す。又梅雨期の頃には、毎年赤痢や疫痢や、腸窒扶斯の如き傳染病が流行しますが、此傳染病は口から入るので、食物や或は指先きなどに、此の病菌が附着して居るのを知らず識らず口にする、夫れが原因になつて是等の病氣は發ります。微菌の發育繁殖に尤も適當した梅雨期には、特別に食物の事を注意する譯です。

餅菓子の手摺み

就中菓子屋で餅菓子を賣る時など、不潔い小僧や、女中が手先きを洗ひもせず、直ぐに手摺みにするなどの事は、是非共改良しなければならぬ事です。歐羅巴の公衆衛生を重んずる國では、其儘直ぐに口へ入れる食物を、手摺

梅雨期は如何に注意すべきか

みにする事は堅く禁じてあります。然るに日本では平氣で之れを賣り、又買う方でも別段深く之れを咎めもせず、に捨置きますが、梅雨期の如く、微菌の發育繁殖によき時期に、萬一其菓子に悪い病毒の微菌でも附着したら何うしますか、左もなくしてすら指先きの不潔物が餅菓子上に附着したら、夫れが腐敗を早める媒介となります。小兒に斯んな餅菓子を與へて下痢したと云ふ例は無い譯であります。

□梅雨期におむつの扱方と小兒の運動

濕氣を含んだおむつ

梅雨にかゝると凡ての物が濕潤して居るから、小兒の

おむつを取扱ふには何れの親も難儀する。そこで濕氣を含んで居ては衛生上宜しくないと言ふ考へから取換へるとき、一旦、濕め濕氣を去つてから用ゐたら宜からうと云ふものもあるが、小兒は兎角習慣の付き易いもので、一度、濕めて用ゐると、身體の抵抗力を弱くする恐れがあるから、之れは止めた方がよろしいのです。

夫れよりは、能く乾いたものを、更に一旦火で乾燥せしめ、其のおむつをば厚い地の風呂敷へ包んで置いたら、濕氣を避ける方法に近くだらうと考へます。

梅雨中は兎角運動の不足するものである故、戶外で運動の出来る年齢の小兒であるなら、雨の晴間を見て外出

運動不足がち

させた方が宜いのです、濕氣があるから、身體の害になるであらう、抔と云ふのは、餘り心配仕すぎたことで却つて外出させず運動させない方が害になるのです。

元來小兒は兎角戶外に於て遊びたがるものであるから、夫れを嫌つて室内に居ることを好むやうでは、先づ其兒は病身であると云はなければならぬ、假令病身とまででなくとも、身體の孰れにか故障があるために、因循して不活潑になるのです。去れば雨水や道路のぬかるみ位で手足を濡したところで、夫れは家へ歸つたせつ、能く拭いてやれば一向に差支へなく、小兒を害するやうな憂ひはないから、雨が晴れたら戶外へ連出し思ひくの運動を

させた方が良い。

併し長い時間足をぬらして冷すと云ふ事は宜しくないから、濡れた靴などを長い時間はかせて置くやうな事のないやうになさい、故に小學校に通ふ兒童などは、授業中濕つた靴のまゝで居るやうな事は避けるやうにしなければならぬのである。

□六月頃に小兒の急劇な腹痛

梅の實の
中毒

毎年六月頃になつて青梅のある頃、小兒が夜中俄に激しき腹痛を起すやうな場合があつたら、之れを食せしや否やを訊す必要があります。

梅の實も熟して仕舞へば爾う中毒することもないが、最も中毒り易いのは青い不熟の時であります。斯ういふ青い梅を口にすると激烈なる腹痛を起します。處が小兒等は戶外に遊びに出て、若し梅の木の下に立寄り、青い梅の實でも見出すと、動もすれば夫れを口にします。故に梅の實の未だ青い時は親が注意して之れに中毒ることを能く説明し、中毒つて腹痛の爲めに苦しむことのある故、之れを嚴禁しなければなりません。青い梅に中毒られた小兒は澤山其例を見ました。一體梅の不熟な青いうちは何うして中毒るのでありませうか。

一種の毒
素即ち青
酸

これは中毒だけの一種の毒素を含んで居るからであります。其の毒は青酸と云つて、分量を多く服みますと爲に人一人位は斃すことが出来ると云ふ程の激しい毒です。夫れを青梅の中には含まれて居るから小兒が之れを食べて中毒るのは無理はないのです。萬一之れに中毒つたことなら激しき腹痛を訴へるのて寢床の上に靜に寢て居ることなどは出来ません。轉々反側して實に苦惱に堪へ難き有様で御座います。爾うして下痢を起し、嘔吐が之れに伴つて參ります。

□汗疹の手當

小兒の發汗

運動及び飲料攝取後或は夏時の炎熱等に際して發汗するものは生理的現象であります。殊に小兒は睡眠中と雖も盛んに發汗する位に皮膚組織は極めて纖弱であります。飲物を飲めば發汗し、眠れば發汗します。炎熱の最も烈しき時は一層發汗する事が盛んで従つて汗腺は過度の分泌を營む爲めに汗疹を發する事が甚だしいのです。

豫防法としては皮膚を清潔にし乾燥せしむるを以て主とします。そして入浴は勿論必要であります。入浴後は撒布劑を用ゐて乾燥せしめます。其撒布劑には實に千種萬種で随分澤山ありますが、先づ多くは亞鉛華澱粉を用ゐます。又入浴せぬ場合には發疹の部分を微溫湯又は礬

あせもの豫防

石鹼で洗うな

酸水などで能く拭き清め、然る後に十分に撒布するので、發疹の模様によりては毎日三度も五度も此の用法を反覆して正しく用ゐれば其の効能も速です。

小兒が汗疹が出来てムシムシ痒がると、親達は入浴の際石鹼で其上を洗つて遣ります。親の考では痒味のある處へ石鹼は少しヒリヒリする氣味があるから却つて心持ちが宜らうと思つてする事のやうですが、之れは飛んだ間違ひで、汗疹に石鹼は禁物であります。何故ならば石鹼の刺戟で皮下の水脈は循行を妨げられ、夫れが爲め水脈の屈折せる點上へ水液が溢れ汗疹となるから、石鹼で洗つたばかりに汗疹も益々増加するばかりです。

はやて

□疫痢流行期の注意

九州邊では疫痢と申しますが名古屋邊でははやて即ち颶風病と申します。これは颶風のごとく病勢の進むことが速で且つ猛烈であるから、斯ういふ名があるののでせう。

疫痢は二歳から六歳頃までの小兒に多くあるところの傳染性の病氣であります。

斯様に恐ろしい病氣ですが、これは七月の頃から、秋口の涼風のそよぐ十月頃まで流行します故、決して親達の油断はなりません、最も烈しいのになりますと、一時一刻

夏から秋
へかけて
流行

を争うて治療を加へてさへ救ふべからざる不幸を見るやうな場合が多い、故に午後三時頃に發病して、翌朝は治療の手が届かず終ることが随分あります。以つて如何に病勢の猛烈に進むものか、其の恐るべき有様を想像し得らるゝであります。

發病する前までは更に平常と異なる様子も見えず、ピンピンして快活に遊んで居ます、處が午後三時ごろになつて、急に眠氣を催うし、疊の上でも構はずに寝て仕舞ひます。夫れも平生は晝寢など少しも致した事のない小兒でありながら、此の日に限りて眠氣をささず、親も不審に思つて寝かして置くが、扱一睡して後眼が覺めると急に

猛烈なる傳染病

高熱を發し、三十九度前後の體温に達する、其頃の季節で斯ういふ場合に遭遇したら、親は機敏なる處置を取つて直ぐに醫師の診斷を受け、一刻も猶豫してはなりません、之れこそ多くは疫痢の容態に變ずるのであります。

一體健康なる小兒で、平常晝寢の習慣のないものが、急に眠がつて晝寢をしたり、或は椽などの冷々したところへ好んで寢たがる時は、親は油斷せず、一應體温を測つて見る必要があります。之れは是非心得て居て貰ひたい。

疫痢は斯くの如く猛烈な勢ひで病症は悪い方へ進みますが、併し之れは何うして發病するものであるかと云ふに、先づ第一に健康な小兒程大に警戒を加へなければ

疫痢の誘因

ならぬのです。夫れには理由もありませんが、兎に角平生健康で藥一服も飲んだこともないやうな小兒ですと、自然親達が油斷をして居る、之れが抑々健康兒に疫痢の多い一つの理由であります。何故ならば健康な小兒だと、夜分寢床から外へ轉げ出し寢冷することでも、不健康な小兒程深き注意を拂はず、又水を飲むとか、食物を喰過ぎると云ふ事に就ても其通りで、兎角油斷をするやうになる、夫れが最も宜しくない、言換へて見れば寢冷をしたり、生水を澤山飲んだり、喰べ過ぎたりするのが、疫痢の誘因となるのです。

此外に尙誘引となるのは、小兒の消化器の衰へて居る

のを心つかず居て、矢張り平生の通りに食餌を取らせると、胃腸の方は既に消化力が衰へて居るので、之れを十分完全に消化を遂げる事が出来ない、詰り喰過ぎと似た様な理窟に陥るから、之れも疫痢の誘因となる場合がある。夫れ故夏から秋にかけては小児の消化器に就いて親の注意は片時も忽に出来ません。

□夏の強壯法

夏は大人ですら、胃腸の消化力が衰へて居ますから、小児は尙更の事でありませす。

湯と水

故に第一飲食物を注意するのは勿論ですが、小児は夏

になると渴を訴へ、兎角水を飲みたがるもので、母親の目を忍んでも、臺所の水甕へかゝつたりしますが、それをさせないやうにするには、適當なる飲料を與へなければ、無理であります。

麥湯

先づ小児の夏の飲料としては、麥湯の冷したものを勧め致します。夫れへ少し白砂糖でも加へて與へたら、夫れこそ喜こんで飲みます。砂糖は俗に「蟲の毒」などと申しますが、少量の白砂糖を與へたところで決して害にはなりません。

果實は煮て與へよ

果實を生の儘與へるのは不賛成です。なぜならば東京の如き都會の地では、新鮮なる品を得られませんが、多く

は日を経た腐敗に傾いた物ばかり多いからであります。ソンの果實を與へたら、下痢を起します。又夫れでなくとも果實は消化の悪いもので、枇杷に害られたなどと云ふ小兒は毎年見受けます。桃でも葡萄でも煮て與へる分には差支へ御座いませぬ。即ち料理した果實ですが、煮て與へないとしたら、見合せて頂きたいものです。腐敗に傾き易きもの、下痢を醸し易き食物などは、決して與へぬやう、且つ餘り喰過ぎさせぬやうにせぬと胃腸を害します。

光 頭腦と日

それから小兒の頭腦を直接日光に曝す事は宜しくありません。必ず夏の帽子を被せるとか、或は日傘をささせて與へぬやう、且つ餘り喰過ぎさせぬやうにせぬと胃腸を害します。

夏の遊戯 水いたづ

る事になさい、最も帽子は大抵被せますが、夫れにしても小兒が帽子なしで日中頭腦を曝されて居るものも、往々見受けます。故念の爲め御注意申します。

モ一ツ御注意したいのは、古來の習慣上小兒の頭髪を剃る事でありますが、之れは悪い習慣で衛生上最も宜しくない事です。是非改善されるやうにしたい。元來頭髪は寒暑とも直接に頭腦を冒されぬために密生するし、且又外傷を拒く上に於ても頭髪の功は最も多いのであるから、夫れを剃落すと云ふのは衛生法に背くの甚しきものと謂はねばなりません。

小兒は夏になると、好んで水遊戯をしますが、場合によ

らと砂い
ちり

ると母親は着物を濡らされて厄介なものですから、叱つて遣らせません。去れども斯ういふ遊戯は、小兒に取つては至つて興味深き運動を興へるものですから成可く小兒の意を満たすやうにして頂きたいものです。夫れも水中へ入つて甚しく濡れるやうでは却つて害になりませんが、手先きを濡す位の事なら、決して差支へないばかりか、大に之れを奨励致します。

夫れから砂戯りも好みます。之れとても木影の如き涼しい處で、直接日光に曝されなければ、至極小兒に適當なる運動となります。砂は清潔なるものを選び、危険な玻璃の片や貝殻のかけなどないやうに注意して興へます。爾

氷水を平
氣で飲む

うすると小兒は其砂を積んだり崩したり、穴を掘つて見たり、いろ／＼な事をして興に入つてなかく、温順しく遊ぶものです。

要するに唯無暗に遊戯と見做して、小兒を叱付け、水遊戯や、砂戯りを止めるのは、却つて母親の誤解と思ひます。

□氷水と蜜柑水

夏の小兒衛生は、第一に腸胃の健全を圖らなければなりません。消化不良は夏になると、毎年有る病氣で、小兒は能く乳を吐いたり下痢したりして困ります。

然るに我國では、習慣上暑中になると、無暗に氷水を飲

氷の種物は悪い

み、夫れがため身體に如何なる影響を迨ぼすものか、消化器に何れ丈害を與へるものか、そんな事はトント顧念せず、咽喉が渴くと云つては、氷水を飲み、以つて渴を醫します、親が平氣で氷水を飲みますから、小兒に飲ましても矢張り平氣で居ますが、恐くは斯んな不攝生な事はありますまい、衛生を重んずる西洋人などは氷を喫する事は最も少なく、遠足などして渴を覺ゆる場合でも、普通の水以上温度より冷たい飲料は用ゐませぬ。

又氷小豆や、氷の種物など、小兒に平氣で喰べさせて居ますが、是れは頗る消化が悪く、場合によると小豆なり白玉なりが、全然消化せずに胃中に停滞し、爲めに下痢を惹起し、腹痛を感じる事があります。殊に氷の中へ入れて、冷えた小豆は、假令多少腐敗に傾いて居ても冷えて居ると、腐敗せしものなるや否やの判別がつかず、實際腐敗に傾いて居るものでも、知らずに喰べて仕舞う事があります。斯んなものを喰べさせたら大變です。況して腸胃の弱い小兒であつたら尙更らの事です。

夫れ故、小兒に氷水を飲ませる事は禁ずるのが安全の策であります。

夫れから又夏になると、坊間で鬻ぐ、蜜柑水と云ふものがあります。之れは一文商ひをする駄菓子屋などに列べてあつて粗末な玻璃壺に詰めてありますが、價の安いも

蜜柑水や肉桂水

の故、小兒が一錢とか二錢とか、親にせがめば買う事が出来来ますので、何うしても是れは小兒が手に取りたがるのです。

處が此蜜柑水のうちには、往々腐敗しかつたものがあつて、振蕩して見ると、底から腐滓が浮き上るのがあります。

品質の悪いのは下痢の媒介

蜜柑水ばかりでなく、肉桂水などと云ふのも、同様な種類としてあります。若し是れ等の中の品質の悪いものでも飲ませたら、往々下痢を起しますのみならず、一旦夏の初めに胃腸を病んだ小兒などは、尙一層注意して斯う云ふものを飲ませないやうに仕ないと、再び之れが爲め

寝冷

下痢を醸したら、恐るべき疫痢や赤痢などに變症せぬとは限りません、注意すべき事です。

□秋の小兒衛生法

寝冷

秋の季節になり、俄に冷氣が加はり、雨勝ちで天候も不順であるしすると、虚弱なる小兒などは、動もすると感冒にかゝりますから、斯る際には親達も大に注意せねばなりません。

然るに感冒の原因をたづねて見ると、氣候の關係ばかりではありません、一方には寝冷から起る事が多いので

す。一體小兒が母親と添寝して居る場合大人よりも小兒の方が熱の高いもので大人と同じ厚さの夜着を被けて居ては、小兒は熱いので知らず識らず乗出して仕舞ひます。そして母親の眠つて居る間に、布團の外へ出て寢て居て、冷えきつた處で母親が眼を覺し、小兒の冷えたる身體に、手を觸れて見て、始めて驚いて、再び夜着の中に入れると云ふやうな經驗は御存じの事ではあるまいかと思ひます。秋の初めに冒される感冒の原因は、七分通りは斯くの如き寢冷から來るのが多いのです。

感冒の一般症狀は、咳嗽を發し、熱が出て、頭痛がし、又水涕等の出るものです。爾うして動もすると肺炎などに變

症したがるから、小兒が感冒をひいたら油斷してはなりません。夫れから熱があつて、頭の痛むやうなら、必ず頭部を氷なり或は冷水なりで冷すことを忘れてはなりません。

急性腸胃加答兒と痙攣

急性腸胃加答兒と痙攣

昨日まで元氣のよかつた小兒が、今日になると突然嘔吐、下痢を起します。之れが普通の吐瀉なら、左のみ驚くには及びませんけれど、何うも急痙と云ふ痙攣ける症狀を來すので困ります。急痙と云ふのは鳥渡腦膜炎症狀に似て居るので、急に痙攣けた上に、眼は半開に釣り上げ、熱を發し、悶絶して仕舞ひます。扱斯ういふ容態を見た親達は、

非常に驚いて、俄に膝へ抱上げたり、且つ抱たり、又は耳元で頻りに名を呼んだり、狼狽を極めますが、これは此病状に對し、最も悪い處置と云はなければなりません。故に萬一斯ういふ風に、痙攣けたら、靜に布團の上に仰臥せしめ、又胸部あたりに締めたる帶をゆるめ、靜に胸部を冷して、醫師の來るのを待ちなさい、小兒の急性腸胃加答兒からは、往々此の急痼と云ふ症狀に變じますから御注意なさい。

ソコで此の原因を尋ねて見ますと、秋の頃であると不熟の柿などを喰べた小兒に多いのです。此の時分の柿は所謂蟲のために熟したのです。不熟な柿ほど不消化なこ

消化機の恢復

とはなき故、何うか柿のために斯んな失敗を取らぬやうに仕たい、尙ほ此の嘔吐下痢が、悪性の疫痢にでも變症したら、夫れこそ小兒の命取りですから、此邊も十分に御注意あるやうに致したいものです。

□消化機の恢復

それから中秋か晩秋の頃に至ると、これは又一年中で最も病人の尠ない時であります。夏の頃に衰へた消化機能も、此の時分の氣候になると、次第に健全となりますから、食事なども進むのが一般衛生上の通則であります。春と秋とは氣候温度の、稍々相似たる場合も多いのですが、春先きは兎角病人のみ多く、秋になると取分け病人

食傷

の尠ないと云ふのも、秋の季節は、春の長閑な時候とは違つて、萬目寂寥を感じるから、従つて自然の上からも病氣を誘起する機会が少ない、これは一は秋に入つて健康を保ち得る所以であらうと考へます。然し茲に最も注意しなければなりませんのは、斯様に消化力の次第に恢復する時、小児の食慾が進むため、遂に腸胃を害する事であり

ます。
之れは多くは食傷と云ふやうな有様で、過食だとか或は不良の食物から起ること、幼稚園時代、即ち五六歳の小児に最も多く、却つて之れは哺乳兒に少ないのです。故に食慾の進む儘に、喰べ過ぎさせぬやうに親々の注意を

要するのであります。

□乳兒の寢冷から起す下痢

腸の働きが弱い

寢冷は昔しから嚴重に注意されましたが、矢張り其の通り注意しなければならぬものです。

平生ならば、身體に障害はないものが、寢冷をすると障害ります。少し大きい小児になると朝下痢をした位で済みますが、哺乳兒だと油斷が出来ません。朝一回下痢をしたが、後は止まるだらうと思ふと爾うは参りません、之れは、

一年齡が少さければ少さい程、腸の働きが弱いので、恢復